

土木技術者女性の会

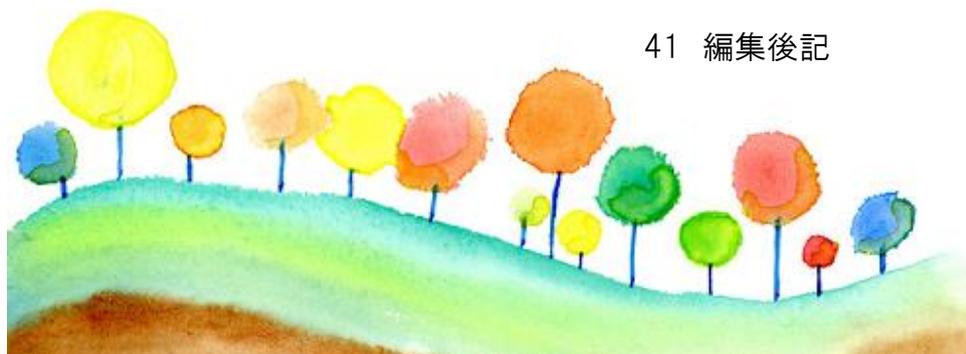
輪人

2013年度総会特別号

本号は「任意団体」としての最後の会誌です
次号からは「一般社団法人 土木技術者女性の会」として発行します

目次

- 01 巻頭言 : 平永佐知子「感謝」(中部地区世話役)
- 02 「一般社団法人 土木技術者女性の会」としての第一歩
- 02 土木技術者女性の会の新たな出発によせて
桑野玲子(会長)
- 03 輝ける未来に向けての道標 ～法人化検討の経過～
須田久美子(法人化検討WGリーダー)・松本香澄
- 05 第32回 土木技術者女性の会 総会、関連行事 開催報告
- 06 イベントⅠ:現場見学会(6/21 13:00-15:30)
- 08 イベントⅡ:パネルディスカッション(6/21 17:00-18:30)
- 10 イベントⅢ:懇親会(6/21 19:00-21:00)
- 10 第32回 総会(6/22 9:15-12:15)
- 15 参加者の感想
- 山田菊子「総会の楽しみ -世代分析から考える会のゴール-」(北海道地区)
- 佐藤亜紀子「やっぱり土木が好き(テレながら...)」(関東地区)／佐野 理「わたしのパワースポット」(中部地区)
- 牧野由依「総会に出席して」(関西地区)
- 21 ひとこと感想
- 22 スタッフ(中部地区)コメント
- 23 会員のページ 私のオススメのたべもの
- 26 書籍紹介 土木学会創立100周年記念出版「継続は力なり -女性土木技術者のためのキャリアガイド-」
- 27 活動報告
- 27 ≪フォトレポート≫ 関東地区 現場見学会
オリンピック予定地見学ツアー
- 31 各地区より 2013 年度イベント報告
- 32 土木技術者女性の会 関連記事
- 土木技術者女性の会関西地区 土木テーマにミニ講演
(2012.11.13 日刊建設工業新聞 p.8 近畿面)／土木技術者女性の会 座談会 in 関西地区(2013.01.07 日刊建設工業新聞)／この女性に聞く-都市計画の仕事は天職(2012.08.01 橋梁新聞 p.7)／この女性に聞く-人間中心設計を土木に応用(2013.02.21 橋梁新聞p.7)／土木技術者女性の会など パネルディスカッション開く(2013.06.27 建通新聞 中部版)／≪スポットライト≫土木に寄せる”思い”(土木技術 2014年1月号)
- 41 編集後記



感謝

中部地区世話役 平永 佐知子

今年度の総会には、名古屋での地方開催にもかかわらず、40名を超える方々が参加してくださいました。そして今回も「準備ごろうさまです」「お世話になります」「ありがとうございます」と、気持ちの良い言葉がたくさん飛び交いました。

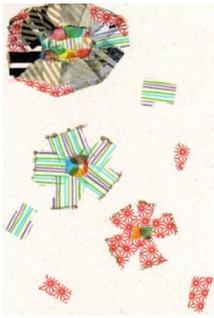
これはあくまで、私の場合ですが、すでに習慣化している場面を除き、心から感謝していないと咄嗟には言葉が出てこないで、逆に御礼や労いの言葉をかけられると、相手の本気度を感じてとても嬉しくなります。総会で声を掛けてくださったみなさま、本当にありがとうございました。

当会に限らず「会」という集団で行動をとるとなると、総会などのイベント以外にも定常的に、情報収集・管理、会計、連絡、調整など多くの仕事が発生します。特に個人情報管理や金銭の取扱いなど、神経を研ぎ澄ませてこなすべき作業も多くあります。

私は役員になって4年経ちましたが、この間、ボランティアの域を遥かに超えているのでは？ という仕事量をこなしておられる方、本業は大丈夫？ 体は大丈夫？ と心配になる場面にも何度か遭遇しました。その使命感、誠実な対応には頭が下がると同時に、特定の人に仕事が集中しないように、過度な負担がかからないように、という基本的なことを会員同士が常に意識することの大切さを痛感しました。

結局のところ、「相手の立場に立って考え、思いやり、感謝の気持ちを持つことの大切さ」ということでしょうか、会が法人化されて活動の幅が広がる方向となる今のタイミングで、これまで会を支えて下さった方々のことを思い感謝し、今後の活動において「負担を分散して皆で助け合って」という“あたり前”のことを、会員全員で再認識できたら、と思いました。

そしてこれからも、総会で行事で「ごろうさまです」「ありがとう」の言葉がたくさん交わされ、笑顔で再会し笑顔で「また今度ね！」と言い合えたら良いなと思いました。

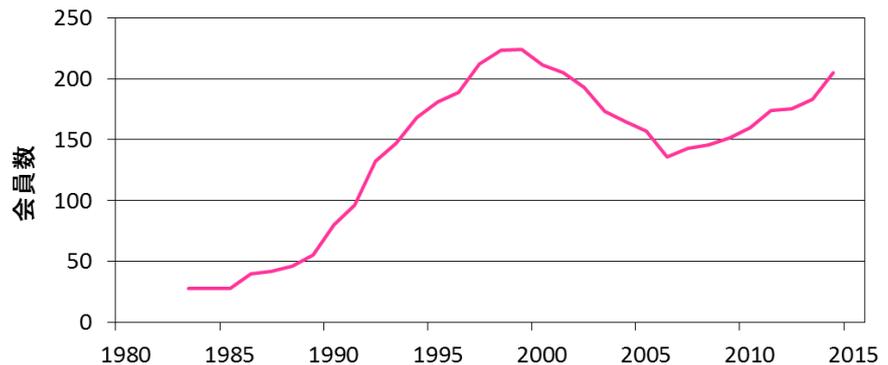


「一般社団法人 土木技術者女性の会」としての第一歩

土木技術者女性の会の新たな出発によせて

会長 桑野 玲子

1983年に28名でスタートした当会は、30年の歴史を経て200名余の会に成長しました。会員数の推移を見ると、会の歩んできた道のりと共に女性土木技術者を取り巻く状況の変化を思い起こすことができます。



創成期の1980年代は、女性土木技術者の先駆者として活躍された先輩方が、会の基礎を作り体制を固めて下さいました。メールもインターネットもなかった時代に、全国に散っている会員がつながる場として総会や『輪』があり、会員同士の連帯感は今よりも強かったと想像されます。1990年代に入り、雇用機会均等法施行に後押しされゼネコンをはじめとして各社で女性の採用が進み、それを反映するように当会の会員も右肩上がりに増えていきました。2000年代に入る頃には、大学や高専の土木系学科には女子学生が一定の比率でいる事が普通になり、各組織における女性土木技術者も特段珍しい存在ではなくなりました。しかしそれに反して、会員数は1999年に頭打ちとなりしばらく減少傾向を示しました。ネット環境が普及してきたことにより、会に所属しなくても情報収集が可能であるうえ、物理的に離れた人ともコミュニケーションできるようになったので、会を通して人と“つながる”必要性が薄れたためかもしれません。会として積極的な会員勧誘をしていたわけではありませんが、1999年と2006年の“Civil Engineerの扉”発刊、女子学生向けのキャリアセミナーなど次世代へ向けた外向きの活動も開催するようになり、2006年からは会員数は増加傾向に転じています。2012年6月には創立30周年記念として土木の意義と使命を考えるフォーラムを開催し、会のシンボルロゴを公募により決め、フォーラムの220名の参加者と共に“どぼく未来宣言”を採択しました。

会員ひとりひとりのできる範囲の努力が、集まり、つながり、続いていくことにより、大きな力に育ちました。この力を次世代へ伝え継続的に支援していくために、活動の範囲と幅を広げるために、このたび任意団体から一般社団法人へ体制を整えることを選択しました。会の目的と理念は不変ですが、新生「土木技術者女性の会」を今後ともよろしく願います。

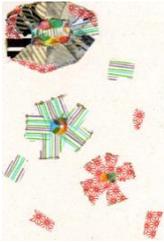


どぼく未来宣言

土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重大な使命を担っています。

わたしたち土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むと共に、これを次世代に伝える努力を続けます。

2012年6月22日
土木技術者女性の会



「一般社団法人 土木技術者女性の会」としての第一歩

輝ける未来に向けての道標 ～法人化検討の経過～

法人化検討WGリーダー 須田久美子

メンバー 松本 香澄

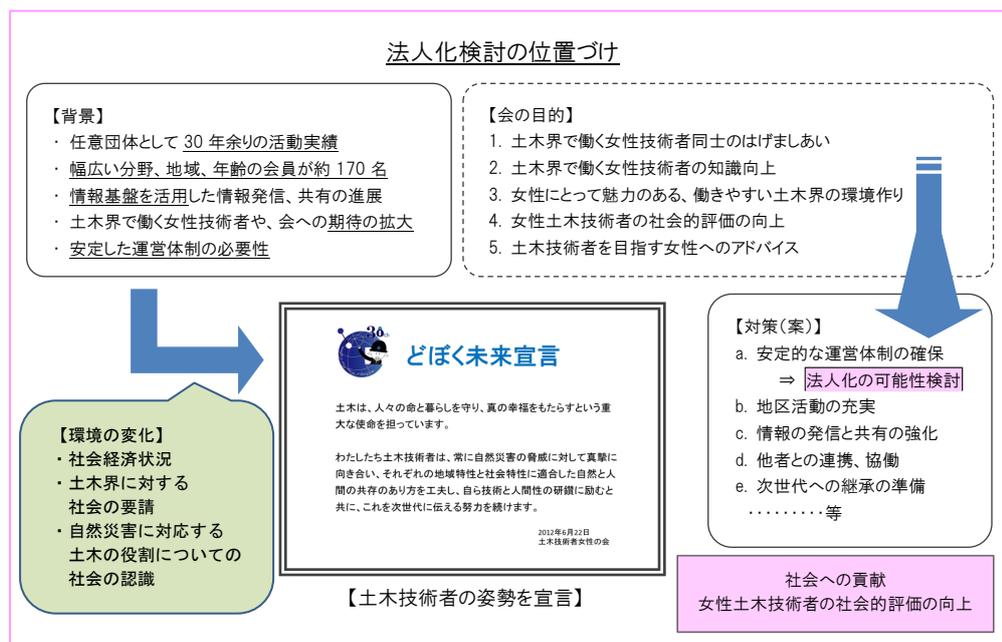
2013年11月18日土木の日、私たちの土木技術者女性の会は、**一般社団法人 土木技術者女性の会**として、新しい道を歩みはじめました。先輩方のご尽力により任意団体が設立されてから早30年。今ここで、一段高いステージに上がり、さらに飛躍を期する瞬間に、一般社団法人を設立するまでの2年ほどの活動について振り返りたいと思います。

2012年7月、前月に行われた土木技術者女性の会 創立30周年記念総会及びどぼく未来フォーラムの興奮も覚めやらぬなか、法人化検討WGは活動を開始しました。

法人化を進めるにあたっては、さまざまな背景がありました。その時点で、当会にはすでに任意団体として30年余りの活動実績があり、近年、ウェブサイトの活用などさまざまなかたちで外部に向けた情報等を発信する機会も増えてきました。また当会には、幅広い専門分野を持ち、在住地も年齢も多岐にわたる会員が170名余りも在籍しており、人的資源は他に類をみない充実ぶりです。どぼく未来フォーラ

ムでは「土木界で働く女性技術者同士のはげましあい」からはじまる当会の5つの活動目的を改めて確認し合い、「どぼく未来宣言」を発信して、土木技術者の使命と自己研鑽・次世代育成という私たちの向かう方向性を打ち出しました。そして、会の活動のさらなる充実を視野に入れた、安定した運営基盤の確立が急務であることを把握しました(下図)。

当時の喫緊の課題は、会の組織が「法人格」を持たない「任意団体」であることから、実質的な契約行為の主体が担当者個人になっていることでした。そこで、法人化検討WGでは、「**法人格**」取得を目的に、諸問題の調査に入りました。法人の種類の検討、法人化によるメリット・デメリットの整理、法人化のための要件や必要な手続きの確認等を進め、臨時役員会の開催にこぎつけたのが2012年11月です。この場で、概ねの方向性の了承をいただき、同月、法人化検討報告書(中間報告)を会員のみなさまに公開し



ました。各地区でも世話役を中心に、内容の理解を促す機会を持っていただきました。そして会員のみならず、みなさまに多くのご質問をいただきました。いただいたご質問の内容とそれらに対する回答は「Q&A集」として取りまとめ WG において共有しました。

法人化検討 WG では、年末年始をはさみ年度末に渡ってこれらの議論を整理し、「法人化検討報告書（最終案）」を4月の総会前役員会に提出しました。この役員会においてもさまざまな議論がなされましたが、当会の今後の安定的な活動を担保するためには「法人化」に踏み出すことが妥当である、という結論に達し、6月の総会に諮ることとしたものです。

2013年6月の総会（中部地区）では、遠路はるばるご参集いただいた会員のみなさまにより熱い議論がなされました。この頃、大きな問題になっていたのは、法人格の取得及び組織維持に要する費用の大きさと運営事務作業量増大の懸念、所属する組織（会社）によっては法人となる当会に会員として登録することが認められない場合がある、という会員からの情報への対応です。前者は内容を精査し、必要最低限に抑えることが可能であることを確認しました。また、後者については、会の規約（法人化後は、定款）の中で、サポーターの種別を新設することで対処することとなりました。

この6月の総会では、議論の後、挙手による投票により「『一般社団法人』の法人格取得」の方向性を決定し、法人化検討WGは作業WGと名称を変えて、手続きを開始することとなりました。

2013年7月以降は、実務的な作業を進めました。会の財産の移管の検討、申請書類の精査、定款案の作成、会計業務の精査（口座管理、会計処理、会費徴収等）・・・等。この間、行政書士、司法書士の専門家（どちらも女性）によるご支援も受け、担当者が一つ一つ作業を積み上げました。2013年9月には、臨時役員会が開かれ、定款に定められる内容や今後の申請手続き等が示されました。この席で、今後の作

業量をみて、11月18日（土曜日の日）の法人設立をめざすという目標が設定され、追い込み作業にかかりました。

法人化検討報告書（中間報告）を提示した2012年秋頃から盛んに議論になった項目として、「男性会員を受け入れるのか」という問題がありました。2013年6月の総会の席でも議論となりました。この点について、行政書士に相談したところ、一般社団法人であれば定款において会員を女性に限定することは可能であることがわかりました。そこで定款では、会員を「当会の目的に賛同する女性又は法人その他の団体」と決めました。これによって、任意団体の活動実態を変えることなく一般社団法人を立ち上げることができました。

このような、WGのメンバーや事務局の尽力の甲斐あり、予定通り2013年11月18日に「一般社団法人土木技術者女性の会」の設立を申請することができました。11月末に法務局より設立申請受理の知らせを受け、12月初旬には会員のみなさまにメーリングリストにてご報告しました。

なお、今回の法人化への対応は、日本学術会議が学術研究団体に向けて発表し、「『任意団体』は、税法上のリスクを回避するため、新公益法人法適用の移行期間である2013年11月30日までに何らかの法人格を取得することを薦める」という通知にもかかったものであることを付記します。

今後は、会員のみなさまにご理解、ご協力をいただきながら、旧組織から新組織「一般社団法人土木技術者女性の会」へ円滑に移行し、新たな出発ができるものと確信しています。法人格の取得により、土木技術者女性の会は安定した運営基盤を確保することができました。さあ、次は会員のみなさまが、この組織を土台にして、さらなる飛躍をめざすチャンスです。みなさまの引き続きのご活躍を祈念して法人化検討のご報告といたします。

第 32 回 土木技術者女性の会 総会、関連行事

開催報告

2013 年 6 月 21 日(金)、22 日(土)の 2 日間に渡り、総会、関連行事が行われました。
今年も、“法人化”についての審議も行われ、会の今後について真摯に語り合いました。

〈行事内容〉

■ イベントⅠ：現場見学会

日時 6/21(金) 13:00～15:30

場所 国道 302 号東南部共同溝(名古屋市緑区大高町)

■ イベントⅡ：パネルディスカッション

「継続は力なり～執筆者、編集者、読者の本音トーク」

日時 6/21(金) 17:00～18:30

場所 名古屋市女性会館 第 3 研修室(名古屋市中区)

■ イベントⅢ：懇親会

日時 6/21(金) 19:00～21:00

場所 金山駅付近(名古屋市中区)

■ 第 32 回 総会 (法人化の審議・議決含む)

日時 6/22(土) 9:15～12:15

場所 名古屋市女性会館第 3 研修室(名古屋市中区)



総会後の集合写真【撮影：中部地区】

【中部地方整備局 HP より】

道-11

シールド機が都市地下を掘進

国道302号東南部共同溝

国道302号東南部共同溝は、名古屋市都市圏の外縁を巡る国道302号共同溝の一部を形成し、名古屋市中心市街地から放射状に伸びる国道1号、19号、22号、41号の各共同溝と結び、都市生活に不可欠なガス、上下水道、電話、電気などを収容しライフラインの安全性、信頼性の向上を目的として整備しています。

平成24年11月～平成26年12月までの間は、シールド機による掘削をご覧いただけます。



緑地立坑



(緑地立坑)

深さ:44.5m 内径:13.6m

緑地共同溝内部構築(殿山立坑内)



工事完成:H24.3

なるみ
鳴海Ⅲ共同溝溝内(鳴海Ⅲ共同溝)
延長:L=3.0km
(シールド延長:3.0km 内径:6.7m)

現場見学会の様子

ライフライン(電気・ガス等)をひとまとめにして
地下に收容するためのトンネル工事です。
工事概要の説明の様子。



これからシールドトンネルの中に入ります。



セグメントの継ぎ手。

高速掘進に対応するため、継ぎ手を従来のボルトから
コーンコネクターに改良されました。



立坑入り口です。これから下に降りていきます。



径 7.44m の泥土圧式シールドがこの奥にあります。
本日の作業はお休みでした。



たくさんの質問に答えていただきました。

【報告・撮影：北原正代、
集合写真の撮影：中部地区】

イベントⅡ：パネルディスカッション (6/21 17:00-18:30)

2013年1月、(公社)土木学会より、書籍『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』が発刊され、多方面からの反響がありました。当会も編集に協力したほか、多数の会員が執筆者として参画しました。

編集にかけた熱い想いや苦労話、書籍の魅力等について存分にお話しいただきました。

○日時：2013年6月21日(金)17:00-18:30

○会場：名古屋市女性会館 第3研修室

○主催：土木技術者女性の会

○共催：(公社)土木学会

○参加者数：約40名、女性のみ

日本テレビ「NEWS ZERO」の取材あり

●パネリスト・・・(*)は当会会員

・編集者代表：岡村 美好さん(*)

(公社)土木学会・教育企画・人材育成委員会ダイバーシティ推進小委員会委員長、書籍の編集WGリーダー

・執筆者代表：佐野 理さん(*) 書籍第2章執筆者

渡邊 弘子さん(*) 書籍第2章執筆者

・読者代表：滝 麻友さん (株)建通新聞社・中部支社 記者

中島 綾子さん(*) 当会中部地区会 地区会計

●コーディネーター(司会)：平永 佐知子さん 中部地区世話役



写真上から、パネリストの様子、白熱する議論、名札に飾られた花はパネリスト手づくり

パネルディスカッションの主な議論

○全般

- ・この本を読むとやる気が出た。通勤時間中に読んだ日は一日が違う!
- ・地区の若手の会員は子育てに忙しくて行事に参加できないため、現在は40代だけが集まっている状態。そんななか、活動の意義を見失いそうだった。この本を読んで「ロールモデルを示すこと」も自分の仕事だと理解した。

○2章「女性土木技術者のロールモデル」

- ・働く女性のロールモデル集は他にもあるが、良いことしか書いていない。それこそ赤裸裸に、良いことも良くないことも書かれていることに意義がある。
- ・ロールモデルは若い人向けかと思っていたが、そうでもなかったのが良かった。
- ・10名執筆者の「充実度グラフ」を見て、自分にはまだ「がんばり代(しろ)」があると納得した。がんばる。

○3章「キャリア継続のためのQ & A」

- ・ 匿名のアンケートは、男性の意見が特におもしろい。
- ・ 参考になった。一人突っ込みしながら楽しく読んだ。
- ・ 土木分野でない方にも役立つ。保育園で会う、働く女性たちに読ませたい。
- ・ 「質問 30 自分の妻は専業主婦じゃないので、家事を手伝わなければならない。飲み会に行けないがどうすれば…」の質問に、ぴしゃりと「断れば？」と言った「ひとことアンサー」の男性に会いたい！

○4章「女性土木技術者の未来(座談会)」

- ・ 上司にこんな方がいたら良かったと思った。
- ・ 周りにいる中小の建設業の社長にも言って欲しい。

○デザイン

- ・ 女性らしい印象を持ったが、裏表紙のヘルメット姿の女性を見て素敵だと思った。
- ・ 帯を外したデザインも好き。帯とカバーを外しても、デザインが変わらないのが素晴らしい。

<編集担当者の視点>

この記録をまとめるために、開催直後に書いたメモを読み返しました。パネルディスカッションの熱気はすごかった…。思い出してもわくわくします。

会場や懇親会では、ペンとピンクの本を持って、執筆者や編集者にサインを求める方が続出。光栄です。多くの方が本のことをご存知で、すでに読んでくださった方もいらっしゃいました。ご自身の経験と照らし合わせた感想や、決意(!)を述べてくださったのが、大変に心に残りました。また、土木技術者だけでなく、男性にも女性にも読んでいただきたいという発言もあり、「市場規模は思ったより大きいかも、ムフフ」と思ったところでした。

編集にあたっては、土木技術者女性の会(私自身も会員です)、地盤工学会(いつも色々なところで一緒します)のみなさんに、言葉には尽くせないお力添えをいただきました。みなさんに元気をお届けしようと思って始めた取組みでしたが、実は多くのみなさんからの励ましをいただきました。私自身のこれからの生き方を考えるきっかけともなりました。

そして、出版を記念したとてもステキなパネルディスカッションを開催してくださった、中部地区のみなさんと、パネリストのみなさん、会場の方々に心からお礼を申し上げます。

まだまだ売ります。チラシをお届けできます。土木学会、土木技術者女性の会、地盤工学会の会員には会員割引などがあります。どうぞお問い合わせください。

■問合せ先: 土木学会ダイバーシティ推進小委員会: 山田菊子 jsce.education03@gmail.com

(⇒⇒書籍『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』の紹介は、p.26 参照)

【報告・撮影: 山田菊子(当会員、土木学会ダイバーシティ推進小委員会 幹事長)、集合写真の撮影: 中部地区】



イベントⅢ：懇親会 (6/21 19:00-21:00)



日本テレビ「NEWS ZERO」の取材もあり、いつもとは違う雰囲気の中での乾杯でしたが、さすがドボジョ！話がどんどん盛り上がり楽しかったです！

先輩方の貴重なお話もお聴きすることができ、とても参考になりました。

幹事を仰せつかり、緊張しまくりの私でしたが、みなさまのおかげでとても楽しい時間を過ごすことができました。

ありがとうございました。またぜひ名古屋に遊びにいらしてください！

【報告：蛭川理紗、撮影：中部地区】

第32回 総会 (6/22 9:15-12:15)

2013年6月22日(土)に、第32回総会が開催されました。

総会の開催報告は、以下のとおりです。

記

1. 日 時： 2013年6月22日(土)9:15～12:30
2. 会 場： 名古屋市女性会館 第3研修室（愛知県名古屋市中区）
3. 次 第

1) 開 会	6) 第33回総会について《関西地区》
2) 会長挨拶	7) 第34回総会開催地について
3) 2012年度活動・会計報告	8) その他
4) 2013年度活動予定、予算、役員人事等	9) 閉 会
5) 会の法人化に向けた検討経過説明、表決	
4. 出席者

出席者：38名＋委任状提出者数63名＝計101名

当会会員数196名(2013年4月1日現在)中1/10以上により総会成立

5. 議事録

《資料》 *印は事前配布

- * 第 32 回総会資料集
- ・ 第 32 回総会資料(別冊)
- ・ 法人化検討のご報告
- * 法人化検討報告書【概要版】
- * 法人化検討報告書

〈 〉は報告者

1. 開会

2. 会長挨拶(桑野)

3. 2012 年度活動報告

3-1 役員会報告〈龍〉【承認】

- ・役員会は 3 回開催した。
- ・どぼく未来フォーラム以降、会員数が 188 名まで増加した。
- ・会費滞納者については、会則に基づき除名とする。

3-2 事務局活動報告〈佐藤(希)〉【承認】

3-3 第 31 回総会開催報告〈北原〉【承認】

- ・収入の 207,420 円は宿泊費及び昼食代の預かり金である。

3-4 地区活動報告【承認】

3-4-1 北海道地区活動報告〈代理:佐藤(厚)〉

3-4-2 関東地区活動報告〈北原〉

3-4-3 中部地区活動報告〈平永〉

3-4-4 関西地区活動報告〈村上〉

- ・現場見学の保険代は地区経費で支出することを確認した。

3-5 「輪」編集・発行報告〈代理:龍〉【承認】

3-6 ワーキング活動報告【承認】

3-6-1 坑内労働規制緩和 WG〈須田〉

3-6-2 ホームページ運用 WG〈石橋〉

3-6-3 就職支援 WG〈代理:山田〉

- ・販売 93 部、どぼく未来フォーラムで 300 部無料配布した。200 部の不足はこれまでの在庫管理の不備により発生したものである。

3-6-4 企画 WG〈牛山〉

3-6-5 web 掲示板 WG〈代理:龍〉

3-6-6 30 周年記念総会 WG〈佐藤(亜)〉

質疑:「その他の支出」とは何か。

回答:シンボル・ロゴの選定にかかるものであり、審査会でのお茶代、名札、表彰状、花束、デザインをした方への謝金等である。

3-6-7 法人化検討 WG〈須田〉

- ・決算のみ報告した。議論は総会後半で実施。

3-7 2012 年度決算報告・監査報告〈山田〉【承認】

修正:関東地区の決算報告日(p.13)の日付を 4 月 1 日とする。

質疑:会計簿記記帳管理費の 30,000 円とはなにか。

回答:複式帳簿の記帳業務の外注費用である。

- ・2012 年度は 30 周年関係で支出が多く赤字決算となった。

4. 活動計画

4-1 活動方針〈桑野〉【承認】

- ・さまざまなメディアに取り上げられることもあって、当会への関心が高まっていると感じている。

4-2 平成 24 年度役員・会計監査〈龍〉【承認】

4-3 役員会・事務局活動計画【承認】

4-4 地区活動計画【承認】

4-4-1 北海道地区活動計画〈代理:佐藤(厚)〉

- ・研修会と勉強会を同時に行う可能性がある。

4-4-2 関東地区活動計画〈北原〉

・世話役補佐 2 名が出産予定のため交替し、3 名に増員する。

4-4-3 中部地区活動計画<平永>

・総会お疲れ様会を実施する。

4-4-4 関西地区活動計画<村上>

・2014 年の総会開催に向けて準備を進める。

4-5 「輪」発行計画<代理:龍>【承認】

・編集長は産休となるが留任する。

4-6 ワーキング活動計画【承認】

4-6-1 坑内労働規制緩和 WG<須田>

修正:リーダー須田→橋本、2012 年度→2013 年度、予算 3 万円→1 万円。

・女性の坑内労働規制が緩和されたことが、広く認知されていないため、さらに広報活動を進める。

4-6-2 ホームページ運用 WG<石橋>

・使用性を考慮してウェブサイトのリニューアルを検討する。シンボル・ロゴのデザインも適用する。

4-6-3 冊子販売管理 WG<代理:山田>

・販売交渉をするための交通費を予算に計上する。

質疑:p.51 の「管理ガイドライン」とは何か。

回答:冊子の紛失があったことを受け、在庫数の管理に関するガイドライン案を作成した。内規として定める。

4-6-4 企画 WG<牛山>

4-6-5 web 掲示板 WG<代理:龍>

・各地区担当のメンバーを選任する。

4-6-6 30 周年記念総会 WG

・予算 1 万円とする。

4-6-7 法人化検討 WG

・予算 1 万円とする。

4-7 2013 年度予算計画【承認】

・銀行口座が 3 つあるため、集約する。

・会計、会費担当事務局スタッフの年間の作業時間はそれぞれ 200 時間に達している。負担軽減の方策を検討する。

・p.56 の「予算計画」は WG 等の予算額変更を反映させ、後日修正版を提出する。

5. 第 33 回総会について<村上>【報告】

・開催準備状況が報告された。

6. 第 34 回総会開催地について【承認】

・北海道地区が立候補し承認された。

7. 法人化について

・報告書に示す 5 つの運営形態を検討した結果、3 案(NPO 法人化する、一般社団法人化する、任意団体を継続する)に絞り、多数決で方向性を決める。

・質疑の論点は、①法人化するか、②会員を女性に限るか、③一般社団法人の場合の運営コストの増加を受け入れられるか、④法人化することにより活動が困難となる会員がいるか等である。

【主な質疑】

質疑:法人化の検討のきっかけとは、問題点(現在の任意団体では資金調達に困難であることや、資産や契約が担当者の個人名義となっていること)の解決のためか。

回答:WG 立ち上げ時は厳密に把握していなかったが 2013 年 3 月の日本学術会議の通知により、検討の



必要性を認識した。

質疑: 任意団体を継続するとの案が採用された場合、上記の問題点を改善できるのか。

回答: 任意団体のままでは、問題点の解決ができず、会の活動を現在のまま続けることは難しい。

質疑: 法人化によるコストで資金調達の困難が解決できないとあるが、現在のところおおむね毎年黒字であり、矛盾しないか。

回答: 法人化しない場合でも、全会員が会費を納入し、通常レベルの活動を続けるのであれば問題はない。「Civil Engineer への扉」の第3版の作成など活動を広げていく上では資金調達が必要である。

質疑: 当会は日本学術会議の言う研究団体に該当するか。

回答: 日本学術会議には登録しておらず、2013年3月の学術会議の文書は直接送付されていないが、内容は当会にも適用されると考えている。

質疑: NPO 法人の場合、所轄官庁はどこか。

回答: 主たる事務所の所在する都道府県である。

質疑: NPO 法人とする場合、会員資格に性別を示すことはできないというが、男性の入会希望者の扱いは今後検討するということか。

回答: 本日の議論で方向性を決めたい。

意見: NPO 法人と一般社団法人の運営コストの差額は7万円であるが(一般社団法人の方が高い)、今の時代に女性に特化した団体は貴重なため、会員資格を女性とすることは必要である。

質疑: 法人化によって退会せざるを得ない会員がいるが、対策はあるか。

意見: 日本建築学会は一般社団法人であるが、会員であることが難しいとは聞かない。当会が一般社団法人となっても問題ないのではないか。

意見: 過去に男性の賛助会員がいた記憶がある。賛助会員として残れないのか。

回答: 現在は賛助会員の規定がない。

意見: 会員の所属組織が公益性を認める法人であれば、所属は可能である。

意見: 官庁は兼業ができないため、公益性の是非が問われる。官庁によるが、一般社団法人の場合は公益性の説明が必要となる。

質疑: 会員資格を女性に限定しなくても良いという意見はあるか。

意見: 会員は女性に限らなくても良い。育児や家事のマイノリティの思いを共有できるため、男性の中にも同じ思いを持つ人がいれば、拒否はしなくても良い。

意見: 女性だけの集まりで話を聞ける場は貴重。学会等の集まりに参加すれば男性ばかりである。

意見: 女性だけでしか話せないことを気軽に話せる場は貴重。男性がいても良いが、テーマに応じて区別する必要があるのでは。

質疑: 男性会員の入会を認めるか。また、コスト負担は問題ないか。

回答: 予算上は赤字だが、実際は会員の工夫や持ち出しにより活動しているため、黒字での運営はできると考えている。

意見: 現在の年会費 3,000 円のうち、700 円が法人化のコストとなるか。

質疑: 一般社団法人であれば、会員資格を女性に限定できるのか。

回答: できる。

質疑: 毎年度の書類作成の労力が少ないのはどちらか。

回答: 一般社団法人のほうが労力は少ない。

【表決】 挙手により表決を行なった。

法人化する(1) NPO 法人 : 3 票

法人化する(2) 一般社団法人： 26 票
 任意団体を継続する : 0 票
 棄権 : 9 票

議論と表決の結果、会の活動実態を変えずに一般社団法人に移行することが決まりました。

【欠席者による表決】

総会出席者の表決に従う : 53 票
 法人化する(1) NPO 法人 : 7 票
 法人化する(2) 一般社団法人: 5 票
 任意団体を継続する : 0 票

8. 閉会挨拶(中部地区世話役 平永)

【文責:森瀬真琴】

第3号議案から第8号議案まで、異議なく原案通り承認可決されました。
 ～総会資料は、HP(会員ページ)をご参照ください～

今回は、「一般社団法人土木技術者女性の会 第2回総会」として、関西地区での開催を予定しております。

なお、メールニュース(2013/07/25号)にてご案内したように、総会後の役員会で、「入会資格」については現在のまま移行しますが、「土木に関連した仕事に携わる」ことを要件にしないこととなりました。

次回総会のご案内

2014年6月20日(金)PM～21日(土)AM
 開催場所:大阪市内(見学会・懇親会・総会ともに)
 ※詳細は、決まり次第ご連絡いたします

今年の総会は、関西地区が主催です。お楽しみに★



参加者の感想



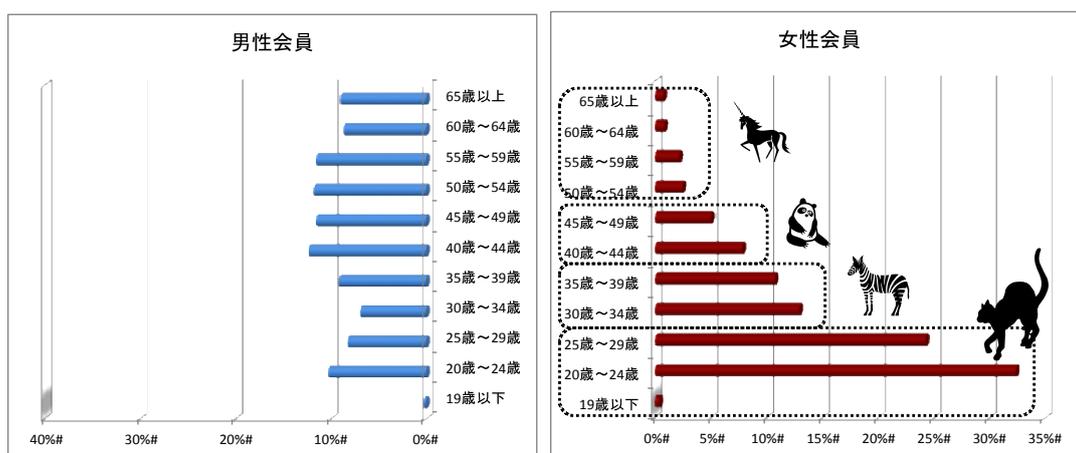
総会の楽しみ - 世代分析から考える会のゴール -

北海道地区/会計 山田菊子

2011 年秋の総会は仕事の都合で、2012 年の 30 周年記念総会はオヤシラズ抜歯手術の術後が思わしくなく、続けて欠席。2013 年の総会は 2 年ぶりの参加となりました。今年は大きな議題もあって気が重いの、2 週連続で名古屋へ出かけるという状況になってしまっていて、体力的にきついこともあり…。いや、そもそも会計をお預かりするようになってからは、年明けから総会までの間は胃が痛くてならないのです。それでもやっぱり総会は楽しみです。何が楽しみって、色々な世代の方に会えるからではないかしらん…。私が最初に参加した 1991 年ごろに比べ年齢層も業務の範囲も大変に広がったように感じます。

総会を振り返るというお題をいただいたのを機に、土木分野の女性がどのように広がっているのかを、数字と私の主観に基づく世代分析から試みることにしました(箱田編集長、頂戴したお題から離れていく気がする。ごめんなさい)。

そもそも、土木分野に実際にはどれほどの女性がいるかご存じでしょうか。手元にある土木学会の会員数のデータを参照してみます。2013 年 3 月 31 日現在の数値で、全会員 31,060 人のうち 3.9%に当たる 1,412 人が女性です。男性と女性の年齢構成比では違いがあるのでしょうか(図 1)。男性はどの世代もまんべんなく分布していますが、女性は俗に言うピラミッド型。明らかに高度成長社会の人口構成です。ということは、男性社会(そんなものがあるとすれば)は、もはや成熟し衰退して行く可能性があります、女性社会(そんなものがあるとすれば)は、これから急成長を続けていくのです。



資料:土木学会資料より作成

図 1 土木学会会員の性別の年齢構成比(2013 年 3 月 31 日現在)

会の会員の構成も恐らく土木学会のものと大差はないだろうという前提で、土木技術者女性の会の会員を世代別に考察してみました(図 2)。私の主観に基づく分析です。失礼があったらごめんなさい。

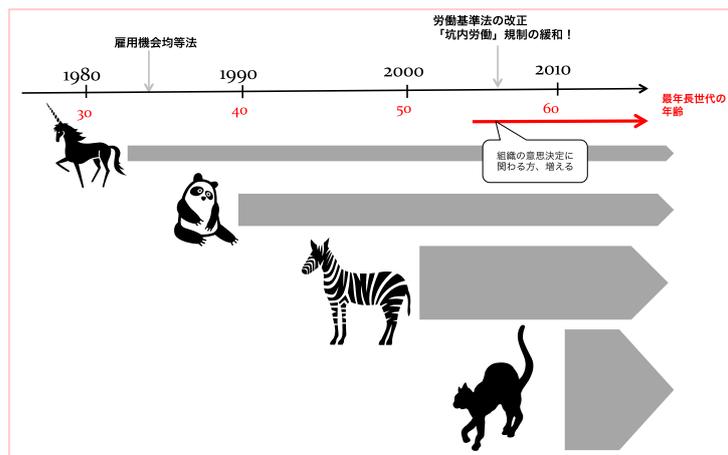


図 2 女性土木技術者の年表

(a) ユニコーン世代

【概要】伝説の存在。存在するらしいという噂を聞いた人は多いけれど、実際を目撃例はまれ。

【解説】1982年に土木学会誌の座談会に出席、1983年に土木技術者女性の会を設立。長年にわたって当会やさまざまな組織を引っ張り、現在はさまざまな組織の意思決定に関与。この世代に分類される方々は数えるほど。

(b) パンダ世代

【概要】珍獣。特定の場所にいるけれど、どこにでもいるわけではない。ちやほやされたり、広告塔になったり、とにかく珍しい存在。

【解説】雇用機会均等法の施行後、組織の「第1号」として入社。その後の数年は次の採用がなかったりすることも。若い頃はとにかく話題になり、メディアにも登場する第一次ブームを経験。現在の当会の役員の大半がこの世代。

(c) シマウマ世代

【概要】たいていの動物園にいる存在。そう珍しくもないけれど、でも特定の場所にしかない。

【解説】定期的に採用され始めた世代。ユニコーン世代のいる組織に多いか。それまで女性が配属されなかった現場に配属された最初の世代かも。

(d) ネコ世代

【概要】その辺にも普通に存在。いろいろな種類がいて数も多い。探さなくても眼に入るようになるのも時間の問題か。

【解説】男性と同様に選考、採用される世代。会社内に同期もたくさん(素晴らしい!)。「どぼじょ」の名称も各所で使われ、テレビや新聞などにも取り上げられるように。第二次ブームは「どぼじょブーム」か。

会の創立以来30年。ようやくすべての世代が揃ったのが、2010年頃。組織の意思決定に関与する「ユニコーン世代」から、社会に出たか出ないかの「ネコ世代」まで、途切れなくすべての世代が揃うようになりました。「ネコ世代」のみなさんが増え、そして「ネコ世代」が意思決定層に進出する時代になることが、会の活動の目標かも…。ゴールが見えた！ 次の10年ががんばりどころですね。

1990年代前半の総会での、当時の事務局長の発言が忘れられません。「毎年、総会が正しく、きちんと立派に行われているのを見ると、女性土木技術者も立派な社会人だと確信します」。立派な社会人だと認めてもらうことから取り組まれた先輩のみなさんのおかげで、総会は今年もきちんと立派に行われました。

そんなことを、総会、役員会の激しい議論の間、考えてワクワクしていたのです。開催に尽力くださった中部地区のみなさん、事務局のみなさん、綿密なご準備をありがとうございました。素晴らしい運営のおかげで、こんなことをこっそり考えることができました。

え、私？ 私は「パンダ世代」。学生時代、就職直後にはもう本当に目立っていて、メディアにも(女性誌にも!)出たのよ。



やっぱり土木が好き(テレながら...)

関東地区/事務局スタッフ 佐藤亜紀子

2009年名古屋の総会以来、3年ぶりの総会に出席しました。再び名古屋での総会です。娘の出産以降、長時間外出するタイミングを見つけることが難しいが続いています。昨年の30周年記念総会は、「2歳になったし。大丈夫。」と意気込んでいましたが、記念フォーラムの当日、明け方からの咳き込み、フォーラムは出席できたものの、翌日は熱が下がらず総会への出席は叶わず、なかなか予定通り進まないことを実感していました。

そして3年ぶりの今年、「もう3歳。実家に預ける。」と準備を始めていると、「なごやいく〜。しんかんせんのを〜。じょせいのかいいく〜。」全身を使って猛アピールする強情な3歳児の説得ができない情けない母親のため、初めての母娘1泊旅での参加となりました。今回は、土木技術者女性の会(以下、女性の会)の将来の方向性を決める大事な審議がある総会にも関わらず、子連れの出席をお許し下さいました中部地区のみなさまのお心遣いに対し、改めて感謝申し上げます。

初めて出席した総会は、入会してまもなく行われた伊東での総会でした。当時、与えられた仕事を進めているだけで満足して、超甘な日々を送っていました。会の副会長でもあった上司のススメ(命令)で女性の会に入会し、総会に出席することになりました。何も考えず何もわからず、総会前の研修会から参加し、トンネルの現場をはじめとした現場での苦労話だけでなく、立派な成果の体験談を伺い、また、女性の会をより良くしようとする活発な

議論の中、自分と仕事の安穩した関係にジレンマを感じていました。これが私の総会デビューです。

その後、事務局のお手伝いをするようになりました。他社の方とほとんど接触がなく、ひたすら実験室に籠って仕事をしていたため、メールやインターネットのない、電話・ファクシミリの時代のお手伝いは勉強の連続でした。今は、土木とは縁遠い仕事をしていますが、当時の役員の方の仕事に対するこだわりや真摯な姿勢を間近で感じる事ができた経験は、「仕事」を進めるうえで今でも大きなモチベーションとなっています。

総会デビューから 20 年以上が過ぎ、土木に限らずさまざまな分野で女性が活躍することが、珍しいことではなくなりつつあります。女性が順当にキャリアを形成できるようになったと感じています。現在、女性の会の会員管理を仰せつかっておりますが、新入会員の方の自己紹介の中には、「社内で技術職の女性がいないため...」「技術職の女性は退職してしまい...」といった文言を未だ多く見かけます。女性の会設立の際の呼びかけに「全国で孤軍奮闘している...」という言葉がありましたが、この「孤軍奮闘」は、決して過去の言葉ではないと感じ、もっともっと女性の会を多くの方に知っていただきたいという思いに駆られます。

土木の仕事に携わっていない私が、未だ女性の会の会員を続けています。なぜか。みなさまのお仕事のご苦労を棚に置き申し上げると、やっぱり「土木が好き」だからです。これは、今回の総会で久しぶりにお会いした先輩の前で発した言葉でもあります。土木の仕事に携わってなくても、土木職でなくても、総会に参加し(しかも子連れで!)、会員を続けています。女性の会とのこういう関わり方も「ありだな」と思っていただけであれば幸いです。そして、これからも、子供と一緒に日々の生活の中で「土木が好き」を楽しみたいと思っています(原稿を書き上げ幼稚園のお迎えへ。戻ってみると 38.7 度! 参った。イラストは娘からのプレゼント“ママとわたし”)。



わたしのパワースポット

中部地区 佐野 理

実家が愛知県ということもあり、末娘を実家に預け、金曜午後の現場見学会からの参加となりました。国道 302 号の共同溝の現場では、事業計画から現場状況まで丁寧にご説明いただきました。質疑応答の時間には予算、設備、工期、人員の手配など、さまざまな立場からの質問が相次ぎ、現場の所長さんに「地元の小学生に次ぐ質問の多い団体」というありがたいお褒めの言葉(?)をいただきました。

続くパネルディスカッションでは、土木学会より出版された『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』の執筆者という立場で、人生初のパネリストとなりました。パネリストとして前に座ったものの、私の目の前にはお話を聞かせていただきたい諸先輩方がずらりと…。

そんな緊張する状況ではありましたが、進行役の平永さんの温かい雰囲気のもと、岡村先生に出版の経緯を伺ったり、みなさんと悩みを共有したりする中で、前向きな気持ちになれる 1 時間半でした。

夕方からの懇親会では、ここぞとばかりにいろいろな方にお話を聞かせていただきました。いつも学会誌や業界紙などで見る諸先輩方や、普段の仕事ではなかなか出会わない若い方など。用意してきた 30 枚ほどの名刺はこ

の時点でほとんど底をつく状態に…。

2日目の総会は法人化の議論が白熱し、あっという間に閉会の時間を迎えました。短い時間での議論でしたが、法人化に際してどんな選択肢があり、何が問題となるのかななどの情報を会員で共有できたことは貴重だと思います。

まさにロールモデルの宝庫といったこの総会、十人十色のロールモデルを目にし、「もう少しがんばろうかな…」という思いを強くしました。下手なパワースポットよりたくさんの方のエネルギーをいただけた2日間です。

職場での多忙な業務を抱えながら準備を進めていただいた中部地区のスタッフのみなさんに感謝しつつ、次回、また全国の会員の方とお会いできるのを楽しみにしております。



総会に出席して 関西地区 牧野由依

今年ゼネコンに入社したばかりの新入社員の私は、今まで“土木技術者”の“女性”の会があるということをまったく知りませんでした。そんな私がこの土木技術者女性の会に参加することになったきっかけは、当社の関西支店の先輩女性社員の方の勧めでした。初めは、非常に失礼ですが、「どうせ少ない人数の女性同士でおしゃべりを楽しむ会みたいな感じなんだろうなあ」くらいの気持ちで少し面倒くさがっていた私でした。しかし、先輩社員の「女性ならではの悩みなどを気軽に相談できるし、今、女性が土木の現場で活躍できているのはこの女性の会のおかげなのよ」という言葉に興味を持ち、入会することを決めました。

今回初めて総会に参加させていただきましたが、蓋を開けてみてびっくり。みなさん女性の会のために本当に真剣に議論していらっやっや、ふざけた気持ちで行った自分がとても情けなくなっていました。総会のほかにも、現場見学会、懇親会、パネルディスカッションなどさまざまなイベントを企画してくださった方々に感謝するばかりです。

《現場見学会》

今回は国土交通省中部地方整備局発注のシールド工事を見学させていただきました。私自身が現在シールド工事の現場に配属されており、同じシールド工事ですがいろいろ比べて感心するところが多く、非常に勉強になりました。このシールドは中に電気の配線やガス管などの住民のライフラインを通すという工事で、今まで自分の現場の道路トンネルしかイメージがなかったため新鮮に感じました。また、掘削した土砂が汚染土であるこの現場は、トンネル内で汚染土を浄化して綺麗な土に改良して坑外へ搬出するシステムをとっており、非常に効率的で環境にも良いので素晴らしいと思いました。残念ながら見学した日は掘進が止まっており、実際に現場が動いているところを見ることはできなかったのですが、この現場は自分の実家に近いため、完成後利用する機会があるかもしれないのでとても良い見学になったと思います。

《パネルディスカッション》

女性土木技術者のためのキャリアガイド『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』の制作の関係者の方がパネラーとなり、パネルディスカッションが行われました。編集担当者の方々がこの本を形にするまでの苦勞、執筆者の方がどんな思いを込めてこの本を執筆したのか、など普段聞くことができないお話をたくさん聞くことができ、自分の仕事に対するモチベーションの向上につながりました。

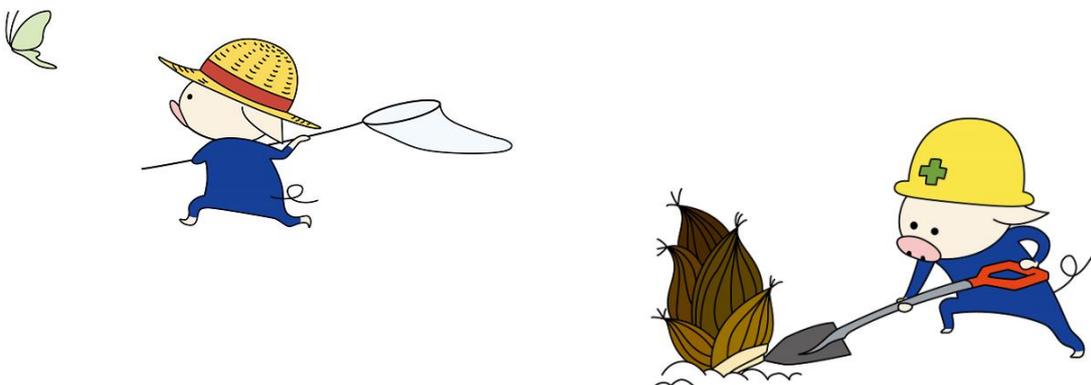
《懇親会》

懇親会はくじ引きで席を決めたため、まだお話したことのないたくさんの方とお話することができてとても楽しかったです。まだ土木の世界に女性社員がほとんどいなかった時代は、作業着や長靴に女性のサイズはなく、女性は自分が女性だとわからないようにするために作業着や長靴を二重に着用して身体を大きく見せるようにしていたと伺い、非常に驚きました。また、「女性がトンネルに入ると事故が起きるため女性はトンネルに入れない」という慣習をなくし、女性がトンネル現場やシールド現場で働くことができるように法律を変えたのは、この土木技術者女性の会の働きかけのおかげである、というお話を聞きました。自分が今、入社前から特に働きたかったシールド現場で仕事ができているのはこの会のおかげであるんだなあ、と非常に感動しました。今の現場で自分が女性として何不自由なく仕事ができているのは、先輩女性社員が苦勞して土木の世界の流れを変えてきてくださったおかげだと改めて実感し、私も少しでも先輩社員を見習いながら現場で仕事をしていこうと思いました。

《総会》

今回の第32回の総会でのメインの議題は、「土木技術者女性の会を法人化するか否か」というものでした。私はこの会に入会して間もないため、正直、法人化した方が良いのかどうかということとはよくわからなかったのですが、法人化するメリット・デメリット、また法人化にもさまざまな種類があるということなどを詳しく説明していただき、具体的なイメージが持ちやすかったです。結果的に「法人化」ということでまとまりました。

2日間全体を通して、これからもこの会のやっていることをたくさんの方々に知ってもらい、また、少しでも興味を持って入会してもらえよう、私も土木技術者女性の会の一員としてこの会を盛り上げていければと思います。次回は私が所属している関西地区での総会がありますので、今回のような中身の濃いイベントがたくさんある充実した総会になるよう、微力ながら頑張りたいと思います。



ひとこと感想

参加した方々からたくさんコメントをいただきましたので紹介します

★雨の中、多くの方に名古屋に来て頂いてありがとうございました。みなさんのパワーを感じました。楽しかったです。 中部地区 Mさん

★今回は現場見学会に参加できなかったことが残念でしたが、パネルディスカッションは、とても楽しく、つい、本を買いたくなりました(実際に買いました)。 関東地区 Mさん

★総会に初めて参加させていただきました。事務局おつかれさまでした。会員数が増加しているとのこと、みなさまの活動の賜物であると思います。 関西地区 Fさん

★本音トークのパネルディスカッションがたいへん有意義でした。地区内でもそうですが、お互いに意外と知らない事情があるものだなあ、と思います。新入会員、特に若い世代が増えたことはほんとうにうれしいですね。北海道地区は減る一方なのでうらやましい限りです。しかも、平均年齢は上がっていくばかり……。発掘しないとイケないかなあ。 北海道地区 Tさん

★パネルディスカッション、総会の法人化について、久しぶりにいろいろな意見が出た総会であり、かなりうれしく思いました。 北海道地区 Sさん

★楽しくてパワーを感じる、充実した総会でした。2日間ありがとうございました。2日間でいやされもしましたし、会に対して頼もしさも感じました。 関東地区 Sさん

★初めての総会参加でした。今まで外から見ていたよりも華やかで、精力的で厳格に活動されていることに驚きました。ぜひ次回も参加したいです。 中部地区 Tさん

★元気な方にたくさん会えました。こちら元気が出ました。 中部地区 Sさん

★中部地区のみなさまおつかれさまでした。みんなで1年ぶりに会えて楽しい時を過ごしました。ありがとうございました。 関東地区 Kさん

★パネルディスカッション、懇親会、総会に参加させていただき、私が今日不自由を感じることなく現場で働けているのは、この女性の会があるこそだと感じ、非常に自分は幸せであると感じました。これからは私も女性の会の会員として会を盛り上げていければと思います。 関西地区 Mさん

★『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』を読んで、女性が働くモチベーションを高めようと思います。 関東地区 Kさん

★土木の仕事に携わっていない方の意見もお聞きすることができ、大変良かったです。 関東地区 Nさん

★昨年30周年記念総会が終わり、中だるみになりそうな今年なのに40名近い参加者があるのは、ひとえに中部地区のみなさんのご尽力(企画力、集客力、魅力♡etc.)によるものと思います。ありがとうございました。 関東地区 Wさん



★最近入会しましたので、総会には初めて出席しました。盛りだくさんの内容でとても勉強になりました。ありがとうございました。 関西地区 Mさん

スタッフ(中部地区)コメント

今回、ホストをしてくださった中部地区スタッフの方々からもコメントをいただきました。
本当にありがとうございました!! そして、おつかれさまでした!!!

塚本雅美さん 過去の中部地区総会に比較し、機動力のある若い会員が多かったです。
平永さんが担当内容を明確に指示してくださったので動きやすかったです。
メール、携帯等の文明の力により下準備に掛ける労力が減りました。

中島綾子さん 中部地区での総会では、いつも、省人力最優先でしたが、今回は多くの若い方が、自分の
できるところでホスト役になってくれたことが、とても嬉しかったです。
『継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイド』のサイン会? のおかげでみなさんとの交流がしやすく楽しかったです。

鴨志田彩江子さん 土木技術者女性の会に参加するのが初めてでした。普段、多くの男性の方々に囲まれて
て仕事をしているので、新鮮でした。私も結婚をしておりますが、家庭と仕事の両立は、
悩みでありました。ですが、多くの方々の土木系のお仕事と家庭との両立のお話が聞くこ
とができまして、とても充実した1日を過ごすことができました。

会員のページ

私のオススメのたべもの

ここでちょっと一息。「会員のページ」復活です！
今回のテーマは「私のオススメのたべもの」
お土産もの、郷土料理、家庭の味、小さい頃の思い出の味などなど・・・たくさんのオススメをご紹介します！

くだもの・お野菜

【大野ぶどう】

大阪狭山市の大野地区で栽培されていて、7月上旬頃から大野地区周辺の街道沿いには各農家（38戸）による「産地直売」の幟を立てた露店が並び始め、今では南河内エリアの夏の風物詩となっているほどです。実は「大野ぶどう」は、生産規模が小さいため、ごく限られたスーパー以外には、商品は並びません。よってわが家では、毎年シーズンになると何店舗か掛け持ちで、車を走らせ買い漁ります。今年は猛暑ということもあって、どの種類の葡萄も糖度が半端なく高くゲキウマ！ でした。

「大野ぶどう」はデラウエアを始め、巨峰、マスカットなど十種類程度栽培されていますが、各農園によって独自に開発された葡萄もあり、その中でも新種の「ピンクレディー」は特にお奨め！ 粒の皮は薄く、また表面は葡萄の甘い汁でパンパン。房を両手で優しく持たないと、食べる前から汁が滴り落ちてしまうほど！ 益を過ぎると、私の大好きな小粒系の大野ぶどうのシーズンは終わりを迎えます。

(関西地区)

【壬生菜（みぶな）】

水菜に似た冬の京野菜。

最近では長さ 30cm 程度、葉が十数本の株が 5 株程入った袋詰めが年中出回っています。

これもおいしいけれど、本当の（というか、私が思っている）壬生菜は、長さ 60cm はあり、1 株を 2~3 に分けた束が両手で掴む程の大きなもの。（今住んでいる奈良では旬の冬でも株では見かけない…残念です）刻んだ油揚げを加えて煮浸しにしますが、お薦めは鍋。京都では壬生菜が主役の鍋「はりはり鍋」にして食べます。鍋にうどん出汁程度に味付けした出汁を沸かし、揚げを入れ、数 cm に切った壬生菜を銘々が食べる分だけ浸し、好みの火の通り具合で引き上げて出汁、揚げと食べる。火の通り具合が大事で、軽く火を通した時のシャリシャリ感を、あるいはしっかり目で水菜とは違うやわらかさと甘みを味わってください。

漬物もおいしいです。刻んだ壬生菜の漬物と上乾のち

りめんじゃこ、醤油を数滴加えたお茶漬けがこの世で一番おいしいと思う。このとき白湯でも出汁でもなく、お茶を淹れるのが私のこだわりです。

(関西地区)

【ミョウガの天ぷら】

この食べ方は、大学の友人に教えてもらったもので、夏に田舎に行ったとき祖母に作ってもらいました。ミョウガ独特の風味がくせになります。薬味として使うことが多いミョウガですが、おかずとして活躍するのでオススメです。ミョウガを 1/2 カットで揚げるとう風味がよくわかり、また食べやすくなります。

(関東地区)

秋のオススメ【呉羽梨（くれはなし）】

梨といえば鳥取の廿世紀が有名ですが、私の地元、富山にも、水捌けの良い丘陵を産地とする「呉羽梨（くれはなし）」があります。皮が茶色い「幸水」種。私は幸水じゃないと梨を食べた気がしません。

毎年、秋の初めに実家の手配で産地直送の箱詰めが届き、これを受け取ると季節が動いたことを感じます。今年は小雨高温のため、小ぶりですが糖度が高い仕上がりでした。農家さんのご苦労を想いつつ、今年もみずみずしさに舌鼓を打ちました。

来シーズンはぜひお試しあれ♪

(関西地区)

【水なすの漬物】

水なすは大阪泉州（関西国際空港のそば）で作られていて、あくが少なく、さくさくとした歯ごたえながら水分が多く、漬物に最適です！

母がこちらの出身なので、ちびの頃から夏の食卓には必ずこれがありました。今も、夏だけは小さいながらぬか床を作り、水なすを漬けています。

これだけは外せない！！

(関西地区)



やっぱり「母の味」

母の作った【塩おにぎり】

自分が母になった今でも、母に「塩おにぎり」作ってもらいます。主人には「お母さんにやらせなくても。」と言われますが、三人姉妹、声を合わせて「お母さんのじゃなきゃ！」と反論しています。

それに、具のない、「塩」がイイのです。おにぎりは、ご飯と一緒に愛情もにぎられ、「おむすび」ともいうだけあって、心と心をむすんでくれるのでしょう。

みなさんも、お母さまに作ってもらおうか、お子様やご主人に作ってあげては？

(中部地区)

母の【お雑煮】

お雑煮って地域や家庭によって特徴があるお料理のひとつですよ。

わが家は鶏ガラ出汁にしょう油ベースのスープ、鶏肉に人参、大根、ごぼう、こんにゃく、凍み豆腐などが具材です。その中でも珍しいのは芋がら（里芋の葉っぱの茎を乾燥させたもの）といくらが最後に盛り付けられることでしょうか。宮城県仙台市出身ですが、ご近所も似たようなものだと思います。具たくさんでおもちに具材が絡んでいるのが何とも言えなくておいしいです。

みなさまのおうちではどんなお雑煮でしょうか？

（関東地区）



【棒鱈の煮つけ】

新潟の祖父母宅に行くと必ず出てくる大好きなたべものです。

乾燥させた棒鱈を戻し、こんにゃくと一緒に甘辛く煮付けたたべものです。骨まで丸ごと食べられ、ある程度の歯ごたえも楽しめます。

いつまでも大切にしていきたいたべものです。

（関東地区）



お料理紹介も！

【サツマイモとチーズのホイル焼き】

保育園の行事でこどもと一緒に作り方を教えてもらいました。

こどものおやつに最適で、こどもも喜び、学童保育に通っているときは、朝作って置いておくと、母親の評価は満点になるという優れものです。

作り方は簡単で、サツマイモを8mmぐらいの輪切りにして、チーズを挟んでアルミホイルで包み、オーブンで焼くだけです。冷えても、チーズの塩気があっておいしく食べられます。小さい頃は皮もきれいにむいていたのですが、皮つきでもおいしいのでお好みでどうぞ。

めんどくさがるの私でも、これだけはこどもと一緒に遊びながらできるので、長続きしました。また、さつまいもは実家から山ほど送ってきたので、これも無駄にせずすみしました。

（関東地区）



【スムージー】

流行りに乗って最近始めました。私は朝ご飯がなかなか食べれない人なのですが、スムージーは飲みやすく、お腹にも溜まるのでおすすめです。グリーン系の野菜とバナナ・その他果物・牛乳・はちみつを入れると甘くておいしいです！

（関東地区）



【チーズ大根】

<材料>

ハード系チーズ（エメンタールやグリエールなど）・ふつうの大根・好きな塩・ブラックペッパー粗挽き

<作り方>

- 1.大根は1mm程度の半月切りにする。
- 2.チーズも同じ程度の厚みに切る。
- 3.大根2枚の間にチーズをはさみ、塩、コショウをたっぷりと振る。

20年前、出張でミュンヘンに行ったとき、現地のビアホールで食べたおつまみです。大根とチーズという、私の中ではあまり考えなかった組合せの妙と、それなのにとっても美味しかった驚きとで、その後、わが家の定番になりました。材料はシンプルなので、チーズや塩を自分の好きなものにすることと、塩コショウをたっぷりふるのがポイントです。ビールはもちろん、ワインにも日本酒にも合いますよ。

余談ですが、私はこの「大根に何かをはさむ」が好きで、

- ・ハムと三つ葉とマヨネーズ
- ・中華くらげとシソの葉と梅ソース
- ・チキンとゴマと味噌

なんて感じで、あるものを組み合わせで作っています。おいしい時もあるけど（上の例）、ダメな時もある、食べ物の組合せって難しいなあ、と思います。好きなもの同士だから良いかといえばそんなことはなくて、最悪なのは「お刺身パフェ」ですね。どっちも大好きなのに…。

（関東地区）



【鍋】

しょうゆだしに、千切りキャベツをたっぷり入れ、ぶたしゃぶ肉でキャベツをくるんで食べます。

簡単にできておいしいです。

（関東地区）



そこでしか食べられない特別な？

【スパイシーカレー】

私のおススメのたべものは、勤務先近くの喫茶店のスパイシーカレーです。

落ち込んだときや元気の出てこないときには、このカレーを食べて気合を入れます。

その時の体調に合わせてスパイスを調整してくれることもあります。高校の時の同級生がやっている店なので、しばらくおしゃべりもして気分転換です！

今日もこれから食べにいきます。

（関東地区）



【ウチダザリガニ】

年をとると肉より魚派になってきて、これまであまり食べたことのない魚介類を試してみることが増えてきました。

最近これはおいしいと思ったのは、ウチダザリガニ。北海道では在来のニホンザリガニ減少の要因とされている、困った外来種ですが、これがロブスターに似た濃いけど食べ飽きないおいしさ。

お魚屋さんで売っていないので、自分で川に釣りに行かないと手に入らないけど…。どなたかたくさん釣れる水のきれいなポイントを知りませんか…。

(北海道地区)

私のオススメ(?)の食べ物【蜂の子】

私が紹介させていただく食べ物は蜂の子です。

私は北陸の出身で岐阜県の長野県寄りの山の中に嫁いできました。この地方での独特な食べ物の一つに蜂の子があります。

これは地元では「ヘボ」と呼ばれる種類の蜂の子を佃煮にするなどして食べるものです。

私はここに嫁ぐまで蜂の子という食べ物を知りませんでした。私の義父はこのヘボを捕獲して巣を大きく育てることを趣味としているのでわが家では自家製の蜂の子がいただけます。義母いわく、蜂の子はとても栄養価が高く高級品で、クセがなく「遠慮なく食べり〜！」と言って勧めてきます。

が、しかし、私にとっては出会った時から衝撃的でした。

蜂の子と言いながら成虫もたっぷり煮込まれている

(義父母いわく、成虫は香ばしくておいしいとのこと)。

味はクセがないと言うが、コッテリとまとわりつくような濃厚っぷり。朴葉(ほうば)寿司というこの地方で五月の節句の時期によく食べられる朴葉の葉に包んだお寿司があるのですが、その寿司にも仕込まれていることがあるので私は常に注意を怠りません。

義父母には申し訳ないのですが「この体を見てもわかるように栄養は十分足りているので」とお断りさせていただいています。

(ここまで書いてなんですが)しかし、好きな方は非常に好んで召し上がるので、会うことがあればぜひ挑戦してみてください!

(中部地区 岐阜県中津川市居住)

根室限定!【エスカロップ、オランダせんべい、ホームラン焼き】

好きなというよりぜひご紹介したい食べ物があります。根室に行ったら試してください。

エスカロップ、オランダせんべい、ホームラン焼きの3つです!!

どれも根室でしか食べることができません。説明はお楽しみということで…。

どうしても聞きたい方は、北海道地区Sまで直接お問い合わせください。

(北海道地区)

そして締めは「あまいもの」!

【納屋橋まんじゅう、鬼まんじゅうに栗きんとん】

私のお薦めは、納屋橋まんじゅう、鬼まんじゅうに栗きんとん。総会などでお土産にして人気の品々です。ばんかくのえびせんべいも定番ですが、茶巾の栗きんとんは食べたことのない方も多く珍しがられます。鬼まんじゅうと栗きんとんは秋がシーズンです。ぜひ、お試しください。

(中部地区)

【鬼まんじゅう】

私のオススメは、「鬼まんじゅう」です。

お店によって、お芋の切り方や生地の食感など少しずつ違うのですが、名古屋人にはおなじみの、さつま芋と小麦粉でできたシンプルなお菓子です。

子どものときから、どこの和菓子屋さんやスーパーでも、売っていたので日本全国どこにでもあると思っていましたが、愛知県のみにあるお菓子のようです。秋～冬は、おいもの季節なので、特にオススメです。名古屋にこられる機会がありましたら、お手ごろな値段なので、いろいろなお店の味の違いを楽しんでいただきたいです。

(中部地区)

【きびだんご】

北海道栗山町にある谷田製菓のきびだんご(旧仮名で書いてあるのできびだんぼに見える)を見るとつい購入してしまいます。

最近知ったのですが、他県のきびだんごは平たい長方形ではないとか。

歯が弱い人は要注意ですが、ぜひ北海道に来た際はコンビニにもありますので探してみてください。

(北海道地区)



【中華まん】

子供のころ(40年前)「法事といえば、どでかい中華まんが5、6本、紙箱に入ったのを両親が持ち帰ってきていました。「中華まん」って、わかりますよね。あんこが中に詰まっている和菓子です(多分、和菓子…)。

両親は共に「札幌」出身。ちなみにニセコ出身の同僚も昔はそうだったと言っていました。多分、地域の和菓子やで製造していたのではないかと思います。

これって、ソウルフード?

(北海道地区)

伊勢の名物【赤福】

私の出身地は三重県なので、「赤福」をご紹介します。創業300年余、伊勢の名物「赤福」です。5年前世間をにぎわせたことでも有名ですが、やっぱり三重県民は赤福が大好き！ 赤福では夏は赤福氷、冬はぜんざい、毎月朔日には朔日餅が楽しめます。

伊勢神宮を参拝した後は、おかげ横丁にある赤福本店へ。赤福本店で食べる赤福は、駅やサービスエリアで売られている赤福とは味が違うんです。

式年遷宮の今年！ ぜひ、伊勢で本場の赤福を楽しんでみてください！

(中部地区)

**【シロノワール】**

私のおすすめの食べ物は、コメダ珈琲店のシロノワールです。あったかいデニッシュパンに冷たいソフトクリームが良く合う、名古屋名物の一つです。

大学時代にコメダでバイトしていたので、お客さんに

注文されるたびにうらやましかったのを覚えています。

(中部地区)

**【博多通りもん】**

私のおすすめの食べ物ですが、お土産で頂いた博多通りもんです。

九州出身の友人にお土産で買ってきて頂き、とても好物です。和菓子が嫌いな私ですが、このお菓子は、バターがとても効いていて、和洋菓子という感じでもおいしいです。友人が、九州に帰るたびに、買ってきて、と言ってしまう程です。

(中部地区)

福岡の博多駅などで売っているお菓子です。生地の中にいもあんが入っています。

(関東地区)



【まとめ:大植敦子】

書籍紹介 土木学会創立 100 周年記念出版

当会の会員も執筆しています！

「継続は力なり - 女性土木技術者のためのキャリアガイド -」

土木学会、土木技術者女性の会、地盤工学会の3つの団体が協力して、女性土木技術者を応援する本を作りました。多様な分野、経歴、年代の10名の女性土木技術者が語る「仕事における最大の危機」や「アドバイス」、アンケート調査によるQ & A等の多様なロールモデルの情報が掲載されています。また、三団体の会長が、これからの女性技術者を支援する取り組みについて決意を語っています。資料編として、女性土木技術者の歩みや各種のお役立ち情報もまとめました。女性技術者を部下に持つ管理職の方にもおすすめです。

■編集:(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 ダイバーシティ推進小委員会

■協力:土木技術者女性の会、(公社)地盤工学会

■発行:(公社)土木学会

■2013年1月31日発行、A5判、114ページ、並製本、ISBN978-4-8106-0748-2

■価格:1,890円(税込) ※ 土木学会、土木技術者女性の会、地盤工学会の会員の方には、会員特価:1,710円(税込)・送料無料にてお求めいただけます。

■主な内容:第1章 土木と女性技術者、第2章 女性土木技術者たちのキャリア、第3章 キャリア継続のためのQ & A、第4章 女性土木技術者の未来(座談会)、資料編

■問合せ:土木学会ダイバーシティ推進小委員会:山田菊子 jsce.education03@gmail.com



教育企画・人材育成委員会ダイバーシティ推進小委員会 <http://committees.jsce.or.jp/education03/>

活動報告

《フォトレポート》 関東地区 現場見学会

オリンピック予定地見学ツアー

日 時： 2013 年 11 月 23 日(土) 13:30～17:00

場 所： 豊洲～晴海地区～築地市場～汐留地区～新橋・虎ノ門再開発地区

参加者数： 学生 2 名+社会人 6 名 = 計 8 名



最初の見学ポイントは、ゆりかもめ市場前駅です。ホームから工事現場の様子を見学しました。



東京都は、築地市場をここ、江東区豊洲に移転させます。現場では、土壌汚染対策工事が真っ盛り。広大な敷地を重機が縦横無尽に行き来していました。

築地市場は、昭和 10 年の開場以来、79 年にわたる長い年月、水産物、青果物などの市場として、首都圏の食を支えてきましたが、設備の老朽化により、衛生面や安全面の確保が難しいとして、現地再整備の検討が進められました。しかし、土壌の問題や、埋蔵

文化財の調査の必要性等を考えて、新市場への移転が望ましいとされ、約 40ha という敷地の広さのほかに、交通の便などの条件を満たす、豊洲が新市場として選ばれました。



今回の東京オリンピック予定地見学ツアーは、東京都の松本さん(当会会員)に講師をお願いしました。用意いただいた資料を片手に、ウォーキングしながら見学ポイントをまわります。見よ、この青空！ 絶好のウォーキング日和となりました。

まずは晴海大橋を渡り、晴海通りに向かいます。



ゆりかもめ豊洲駅に隣接する直径 140m の巨大な円筒形の建物が、テプコ豊洲ビル(ビッグドラム)です。ここは東京電力の新豊洲変電所で、建物の地下に変電施設があります。



晴海大橋の左側には環状第 2 号線の豊洲大橋が見えます。橋は完成していますが、環状第 2 号線が完成していないので、まだ通れません。



晴海大橋右岸側には、防災公園が整備されています。

東京スカイツリーも見えました。



橋を渡って晴海通りに出ました。道路も広く、新しい建物が並びます。オリンピック選手村予定地もすぐ近くです。が、その中に異彩を放っているピンクの建物が目に入りました。古い、団地のような建物ですが、上の看板には「東京経節センター」とあります。当初、都市開発の対象にならなかった4つの建物の一つだそうです。普段は

節の匂いがプーンとするのだそうですが、今日はお休みのせいか、あまり匂いませんでした。



この道路上にひかれたレールりくこうは陸閘が走るレールです。陸閘とは、防潮堤が道路を横切る場所に設けられるゲートです。通常は車両などの通行を確保するため開放してありますが、高潮時には道路を閉鎖し、海水の浸入を防ぎます。つまり、ここは防潮堤の一部で、ここより陸側が堤内、海側が堤外になります。「東京都港湾局陸上防潮扉」のプレートを確認しました。



東京 2020 オリンピック HP より

環状第2号線を渡ると、オリンピック選手村予定地です。今はまだ駐車場等で、手つかずの状態ですが、予定では上図のようになります。さまざまな宗教に対応する施設にしなくてはならないため、設計には苦労が多いようです。また、一番問題なのは、建設コストをどう回収するのかということです。オリンピック開催後、施設を無駄にすることなく、住宅、オフィス、ホテルなどに活用する方策を探っているとのこと。

【散策コース】

今回歩いたルート ●—● 約5km

(START 市場前 → GOAL 新橋)

東京 2020 オリンピック HP より加工



マンション群の中にある橋から見たのは、建設中の環状第2号線。手前のオレンジの壁は水門です。



都営地下鉄大江戸線勝どき駅交差点に着きました。今まで、人や車にほとんど出会わなかったのですが、ここに来て、にぎやかになりました。



かちどき
勝鬨橋にやってきました。



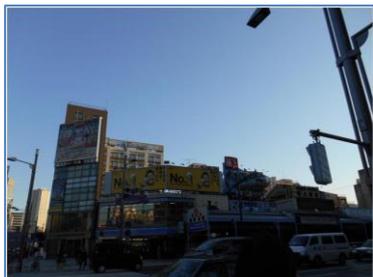
橋脚の中にはゲートを開閉する機械が収納されていました。それにしても、かなりの数のリベットがうちこまれています。開閉する構造を調べてみましたが、イマイチよくわからず。次回「かちどき橋の資料館」に立ち寄って調べてみることにしましょう。



記念撮影です。橋を渡ったところに「かちどき橋の資料館」があります。土曜日は開館となっておりますが、なぜか今日(土曜日)は開いていませんでした(そのワケは、後でわかります)。「おかしいね～」と言いながら、歩き続けることにしました。



楽しみにしていた、築地の美味しいドーナツ屋さん「コナコナバスケット」もなんとお休み。土曜定休なんて書いてないよ…。重要な見学ポイントだったのに…。事前に調査したスムージー屋さんや他のスイーツ屋さんもまわりましたが、お休みでした。なぜ？ (byスイーツ担当 Mさん)



築地に到着しました。

そうなのです。今日は、「勤労感謝の日」でした。築地市場も、橋の資料館もスイーツのお店もお休みだったのは、普通の土曜日ではなく祭日だったからなのです。



築地市場は移転する予定ですが、場外市場は含まれません。市場が移転された後の活性化策が課題になります。当然ながら、跡地自体の活性化策も課題です。

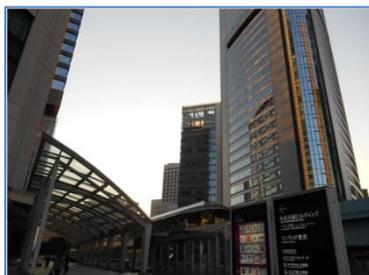
さらに問題なのは、更地にするためには、建物がかなり古いためアスベストの可能性があったり、土壌にも問題がありそうだったり、さまざまな難しい対策が必要ということです。



1954年3月1日、ビキニ環礁にて水素爆弾実験があり、第五福竜丸が被ばくしました。その際、水揚げされた2トンのマグロがこの一角に廃棄されたとの説明プレートがありました。



これは、築地市場内を走るフォークリフトです。あるお宅の駐車場に駐車されていました。



汐留にやってきました。もうだいぶ日が傾いて、ビルに夕陽が反射しています。



建設中の環状第2号線(トンネル部)

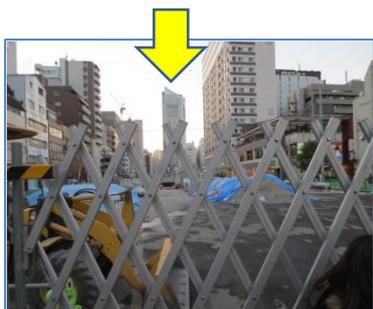


最後の見学ポイントは、環状第2号線のトンネル工事です。築地市場付近から、汐留・虎ノ門区間1.84kmがトンネルになります。



さらに、虎ノ門に向かって歩きます。新橋から虎ノ門までの環状第2号線の地上部は、東京の顔となる表通りをめざし、まちづくりが始まっています*。「新虎通り」は、歩道の幅約13mと、東京23区で最大級の広さを持ち、自転車専用レーンなども設けられ、緑豊かな街路になるとのことです。用地交渉にあたっては、わずかな測量誤差も許されず、かなりの神経を使ったとのこと。

* 東京都は「東京シャッセプロジェクト」を立ち上げ、都道をにぎわいの場として活用し、まちの活性化を図ると発表しました。
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2014/03/20o3b200.htm>



奥に、森ビルが建設中の地上52階建ての超高層ビル「虎ノ門ヒルズ」が見えました。来春の開業

をめざしているとのこと。赤提灯の飲み屋が多い新橋エリアに、おしゃれな空間ができるのですね。どのように仕上がるか楽しみです。

『東京オリンピック予定地見学ツアー』は、第二弾、第三弾を企画し、街の変わっていく様子を見続けていきたいと思います。

最後に、今回参加した、学生、フレッシュ社会人、熟年(?)社会人を交え、汐留カレッタ 46Fにて懇親会を行いました。夜景を眺めながら(最後にちらりと見たのですが)、楽しく懇談しました。

【報告・撮影：北原正代
(関東地区世話役)】

活動報告

各地区より 2013 年度イベント報告

各地区の2013年度の活動は下記のとおりです。

	北海道	関東	中部	関西
2013年 4月	4/6 地区総会			
5月				5/24 現場見学会「阪神高速道路(株) 三宝ジャンクション建設工事」
6月	6/21 見学会「国道302号東南部共同溝」 パネルディスカッション「継続は力なり～執筆者、編集者、読者の本音トーク」・懇親会 6/22 第32回 総会			
7月			7/29 総会お疲れさま会	
8月				8/31 勉強会「防災体験学習」 8/31 打合せ「第33回総会準備」
9月		9/21 見学会「浮島太陽光発電所」		
10月				
11月	11/18、19 北の暮らしを支える土木 土木の日パネル展(主催は北海道土木技術会)	11/9 土木系女子学生のためのキャリアセミナー「中央環状品川線 統合事務所五反田入り口工事現場」 11/23 現場見学会「オリンピック予定地見学ツアー」		11/15 現場見学会「西日本高速道路(株)新名神高速道路建設工事」
12月				
2014年 1月				
2月		2/1 新年会		2/1 地区会&新年会
3月				

土木技術者女性の会 関連記事

2012/8/1 橋梁新聞 p.7

「この女性に聞く／都市計画の仕事は天職」

この女性に聞く
konohitonikiku

大阪府都市整備部総合計画課
土地・地域利用計画グループ
都市計画総括主査

牛山 育子さん

都市計画の仕事は天職



土地・地域利用計画グループの業務は、市街化区域と市街化調整区域の線引きやまちづくりの基本となる都市計画区域マスタープランの策定などだ。また、市町村から地区計画についての相談を受けたり、アドバイスを行ったりもする。「将来的には専門的な知識を深めて、都市計画のエキスパートになりたいです」

土木事務所時代には、千早赤阪村にある葛城橋や高天橋などの配色も担当した。「淡い色で統一し、自然と調和するようなイメージにしました」

現在、土木技術者女性の会に在籍。女性の土木技術者の草分けとして知られる正木啓子氏（元同会長）から直接誘われたことがきっかけだ。

「同じ土木の分野で頑張っている女性がたくさんいることを知り、お互いに刺激を受けています」

都市計画の仕事は、天職と言いつつ、「何年、何十年か先のまちづくりに関わることによりがたいを感じます」

趣味は、コンサートに行くこと。クラシック音楽の指揮者である大植英次氏やロックのボン・ジョヴィのファン。奈良県出身。

(飯島和幸)

2013/2/21 橋梁新聞 p.7

「この女性に聞く／人間中心設計を土木に応用」

この女性に聞く
konohitonikiku

東京工業大学
大学院理工学研究科
土木工学専攻 研究員

山田菊子さん

人間中心設計を土木に応用



「大学院で交通行動モデルを学んだ際、研究が楽しく、仕事にしたいと思ったのもこの頃でした」

大学院修了後、三菱総合研究所に入社。大規模橋梁が開通した際の周辺交通機関の需要予測や高速道路の工事生じた際の道路交通への影響などの研究に携わった。地方のシンクタンクを経て、現在は東京工業大学で人間中心設計を土木分野に応用する研究に取り組んでいる。

「人にとって使い勝手の良い製品やシステムを作るための研究です。社会基盤整備に

用することに興味があります」と語る。また、土木学会ダイバーシティ推進小委員会や土木技術者女性の会にも所属。女性技術者が誇りを持って仕事に打ち込める環境づくりに力を入れている。先日、地盤工学会との3者で編集した「継続は力なり～女性土木技術者のためのキャリアガイド～」を出版した。

趣味は読書。手当たり次第に読む。子供時代、登山中に見上げた新六甲大橋が忘れられないと語る。京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士。神戸市出身。

(飯島和幸)

2013/6/27 建通新聞 中部版

「土木技術者女性の会など パネルディスカッション開く」

土木技術者女性の会（桑野玲子会長）と土木学会（橋本鋼太郎会長）は21日、2013年度の中部地区総会に併せて、1月に出版された書籍「継続は力なり～女性土木技術者女性の会など パネルディスカッション開く」の出版記念



「継続は力なり」出版記念
土木技術者女性の会など
パネルディスカッション開く

副題は「執筆、編集者、読者の本音トーク」とし、パネリストとして3者の代表5人が登壇。同書への思いや苦労話のほか、本に盛り込まなかった裏話などを披露した。

参加した約40人の女性技術者らは、執筆者の苦労話などを熱心に聴講。女性技術者としての不安や悩みを共有したよう

土木技術 2014年1月号

スポットライト

土木に寄せる“想い”

くわの れいこ
桑野 玲子*

この度、2014年1月号より対談形式での新連載【スポットライト】がスタートいたしました。本誌編集委員が“いま、会いたい”土木業界で活躍している話題の人を訪ねます。第一回目のゲストは、土木技術者女性の会第5代会長（2009-）で、土木女性技術者の先駆者である東京大学生産技術研究所の桑野玲子教授。経歴や趣味、土木への想いなどのお話をお聞きしました。

[聞き手：内山編集委員]

土木の世界に入るきっかけ

内山：早速ですが、桑野先生がいつ頃から土木に興味を持たれたのか、お聞かせください。

桑野：実は、祖父も父親も土木技術者です。そういう意味で、土木の世界を小さいころから身近に感じていました。

内山：幼少の頃、土木技術者のお父様に連れられて土木構造物を見に行かれたことはありましたか？

桑野：祖父はトンネルの技術者で、父はダムの技術者でした。父の転勤に伴って、福井で幼稚園から小学校の低学年時代を過ごしたのですが、現地踏査のルートを山菜採りで一緒に歩いたこともあります。そういう環境だったので、子供の頃から土木に多少親しみを感

じていました。

内山：大学に入られて、3年次に土木の道を選択された時のことをお聞かせください。

桑野：大学に入るときにはいわゆる理工系のグループに所属しましたが、大学の2年生から3年生に進学するときに学科を選びます。当時は、土木と建築と都市工学の違いは全く分かっていなかったのですが、ちょうど進路を選ぶ2年生の時に、長崎で豪雨があり人が亡くなるような大災害を当時ニュースで見まして…台風や豪雨などはあらかじめ進路も予想されているのに、毎年人が亡くなったりしますよね。これだけ科学技術の発達した時代に何とかならないのか、と思ったのが直接のきっかけだったと思います。日本は自然災害がとても多いので、その中で何か役に立てる分野に進みたいと思いました。

やはり、自然災害対策に役に立てる事…それから、モノづくりもいいなと思っていたことが土木を選択した理由だったと思います。

内山：最近、“ドボジョ”という言葉を見聞きする機会が増えてきましたが…桑野先生の学生時代は、同じ学科に他に女子学生はいらっしゃいましたか？

桑野：それはもう当然ゼロです。(笑) 第1

*東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 教授/土木技術者女性の会 会長

号の女子学生から、5年経って私が入学したと思います。

内山：では、第2号だったのですね。

桑野：はい。上を向いても下を向いても女子学生の仲間はいないという状態でした。

内山：現在は、何人ぐらいいらっしゃるんでしょうか？

桑野：年によって多少の変動はありますが、だいたい10~15%ぐらいが女子学生です。ですので、珍しい存在ではなくなっています。

内山：学生時代から山登りがご趣味だとお聞きしたのですが、山登りと土木の自然の感じと、何か共通するものはありますか？

桑野：山登りと土木の選択は別だったとは思いますが、自然の厳しさを体感して都市の生活のありがたみを実感していたかもしれません。大学時代は山ばかり登ってましたね(笑)。もちろん、現在も山登りは続けています。

内山：ご卒業後の就職先についてお聞きしたいのですが、将来どのような道に進んで行こうかといった夢はありましたか？



ご家族と趣味の山登り

桑野：私は当時就職先に関して何のビジョンもありませんでした。土木技術者女性の会に

は意識の高い方が多くて、長く働き続けやすいかどうか事前に十分にサーチをして、勝算を持って就職を決めている方が、たくさんいらっしゃいます。私は、行き当たりばったりという感じでした(笑)。

内山：大手ゼネコンに、初の女性土木技術者として入社されますが、特別な想いをお持ちでしたか？

桑野：受け入れていただけたところに行きましたので、「初のなんとか」という意気込みや気負いはあまりありませんでした。ちょうど私が入社した時は、雇用機会均等法が施行されてから2~3年目で、他のゼネコンでも、いわゆる女性第1号を採用し始めた頃でした。

内山：入社後は、どのようなお仕事をされていらっしゃるのでしょうか？

桑野：土木設計部に配属されました。本社の土木設計ですから扱う物件は大きいのですが、新人ですから私自身のできることはしています(笑)。忙しくて、毎日帰りは深夜になるような状況でした。

内山：その後、イギリスへ留学されたきっかけをお聞かせください。

桑野：ちょうど入社してから5年目ぐらいになると、ジョブローテーションで…キャリア形成の一貫で異動も多くなってきます。土木設計に配属された同期入社組も、その時期になると現場に異動する人が増えてきました。そんな中、私には何の声もかからず、設計に居残りみたいな感じになり環境を変えたいと思いました(笑)。

内山：留學生活はいかがでしたか？

桑野：イギリスの居心地は良かったです。年齢や性別にかかわらずその人の本来の実力や個性で勝負するような世界で、様々な人種が混在していました。もともと多様な社会なのだと思います。ただ、言葉の壁は大きくて、ドクター論文をまとめるのはとても苦労しましたが、今の苦労は後々何らかの糧になるかもしれないと思い、何とか頑張りました。

内山：イギリスでの研究内容や苦労した点について、お聞かせください。

桑野：専門は地盤工学ですが、その中でも特に基礎的な砂の変形や、降伏に関する研究をしていました。ロンドンは「ロンドンクレイ」という粘土が主たる地層構成なので、実験設備は粘土を想定したものばかりでした。そのため、実験装置の制作はゼロからのスタートで苦労しましたが、自分で実験装置をつくるというのは、考えるということの基本でもありますし、技術職員の方に自分のやりたいことを伝えたり、友好的人間関係を築いて研究を円滑に進めるためにはコミュニケーションが不可欠で、英語力の向上にも繋がりました。

内山：研究に追われる中で、何かりフレッシュできるようなものはありましたか？

桑野：そうですね。毎日、深夜に及ぶまで研究をしていたのですが、運動不足解消に空手を始めました。日本にいたときには、まったく興味なかったのですが、向こうの人たちは結構武道が好きなのです(笑)。やってみると、ストレス解消にもなって、ついには黒帯まで取りました。

内山：社会人経験を積んでからの留学については、どのようにお考えですか？

桑野：私が留学していたインペリアル・カレッ

ジでは、入学の推奨要件に実務経験2年以上などがありました。修士課程は1年弱の集中的なコースでしたが、彼らのモチベーションとか、目の付け所とか、やはり全然違いました。実務経験を経て問題意識を持って帰ってくる方たちは、吸収しようとする意欲が大きいですので、結局は効率的なんじゃないかという気がします。



イギリス留学時代に空手で黒帯を取得

「土木技術者女性の会」について

内山：次に、会長をなさっている全国土木技術者女性の会について、これまでの歩みや現在の活動状況をお聞かせください。

桑野：土木技術者女性の会は、1982年に土木学会誌が企画した座談会がきっかけに発足しました。私自身はその当時はまだ学生で知らなかったのですが、20人ほどの女性土木技術者が全国から集まったと聞いています。創立30年を経て、現在は会員数200名弱にまで成長しました。もともとは、同好の士が集まるサークル的な感じだったと思いますが、それぞれの組織に帰ると、一人で頑張っている…闘っているといった感じの方々ばかりでした。

内山：それぞれの職場では、皆さん孤軍奮闘されていたんでしょうね。そもそも創立の目的は何だったのでしょうか？

桑野：職場を越えてネットワークを組んで、みんなで愚痴を言い合うわけではないですけども、支え合いながら個々の困難を乗り越えるのが目的だったと思います。最初の目的はほとんどそれに尽きると思うのですが、私が今振り返って立派だと思うことがあります。それは「女性土木技術者の社会的評価の向上や後進の育成」といった、自分達の励まし合い以外の少し高次の目標を、創立当初から挙げていたことだと思います。



30周年のフォーラム

内山：土木建設業界に年々女性が増えてきていますが、地域によっては、まだまだ孤軍奮闘している方がいらっしゃいます。こういった、女性同士のネットワークが、会社を越えて心の支えになったり、モチベーションの向上に繋がるのは素晴らしいことですね。

桑野：そうなんです。マイノリティにとっての一番の悩みは、大概ロールモデルがないことですね。

内山：そうですね。

桑野：もし私が会社にいた頃に憧れの同性の先輩がいて話ができたり、あるいは10年後、20年後にあんな風になれるかもしれないというロールモデルが居たら、辞めなかったかもしれないと思います。

内山：会を通じて、同業他社でもロールモデルを多く知ることができれば、女性特有の悩

みを1人で抱え込むことは減りますね。

桑野：そうですね。特に、女性特有の出産とか育児だとかについては経験者がたくさんいますので、とても心強いです。私も若いころは、子育ての話をされても全然ピンと来なくてよく分かりませんでした。後に実際そういう場面に直面すると、あのとき誰々がこう言ってた、とか参考になることが多いです。

内山：私が会を初めて知ったのは学生のころだったのですが、土木技術者を目指す女子学生のための就職支援パンフレット「Civil Engineerへの扉」で、土木の世界で活躍されている女性技術者の紹介記事を読んで、就職時に心の支えになったのを覚えています。

桑野：会員になった途端に、今度は自分がロールモデルになるということですね。

内山：会長から女性の土木技術者に向けて、何かメッセージを頂けますでしょうか。

桑野：女性だからといって、土木の仕事に就けない理由は1つもありません。土木の仕事に興味を持ったのであれば、いろいろな分野もあり、いろいろな働き方も可能なので、ぜひ臆せずに挑戦してほしいと思います。

実際に、多様な働き方をしたり様々な分野で働く方々が土木技術者女性の会にいますので、そういう方達を手本にして、飛び込んできていただきたいと思います。

土木の仕事は、かつて言われた3Kのイメージがいまだにありますので、不安を持たれる方も多いと思いますが、自分1人で乗り越えようと思わず、周りの助けを上手に借りることがコツだと思います。ワーク・ライフ・バランスのライフの部分乗り越えるのに、自分1人で何もかも解決しようとする、周りも自分も疲れてしまっ、続かないという

ことになりかねません。社会の制度や、会社の仕組み、あるいは身内や友人を総動員して、その場を「しのぐ」ことも場合によっては考えるべきだと思います。常に全速力で、常に満点を取りながら走る必要はありません。いろいろな個人的な事情で少しペースを下げなきゃいけないときは、上手にしのぎ、また環境が整ったら全開で走るといって、メリハリを考えて長期的にキャリアを考えていけば乗り越えられるのではないかと思います。

内山：女性に限らず、男性も時にはペースダウンする働き方が必要になってきますね。

桑野：男性でも、例えば育児への参画や、高齢化してきて介護の問題になってくると、今まではどちらかという女性に負担のいきがちだった問題が男性にとっても人ごとではなくなっています。男性だってけがしたり病気になるったり、いろいろ事情がありうるので常に100%の状態では走りません。例えば、風邪を引いたときに、無理を押しつけて長引かせるのがいいのか、あるいは、しっかり休んで早く治し回復してから頑張るほうがいいのかということ、誰でも納得すると思います。それと同じロジックです。



本誌インタビューにて

学生へのメッセージ

内山：日本の未来を担う学生の皆さんに期待することを含めて、メッセージをお願いします。

桑野：学生は、自分もそうでしたが、いい意味でも悪い意味でも、世間知らずですよ。だから、自分の可能性や興味にふたをしないで、なんでも挑戦してほしいと思います。それこそ自分がのんきだったのを棚に上げて言いますが（笑）、情報を収集しすぎて頭でっかちになって、自分自身に限界をつくらないでほしいと思います。

震災に対する想い

内山：2011年3月11日に東日本大震災がありました。震災に対する想いや心境に変化がありましたらお聞かせください。

桑野：阪神・淡路大震災で、インフラに対する信頼がずたずたになりました。その後、同じタイプの地震災害に対しては、対策が施されているので高速道路や橋脚は倒れないでしょう。しかし、今回は別の形で思ってもいなかったような、甚大な被害を受けました。決して無力感を感じているわけではありませんが、人間が想像できる範囲はたかが知れていて、それ以上のことが実際に起こりうるのだと強く思いました。あの規模の地震が来ても同じ要因で人を死なせないという意気込みで臨まなければいけないと思います。

日本のインフラの未来について

内山：近年、日本のインフラが寿命を迎え、老朽化やその管理体制について問題になっていますが…国土強靱化も含めて、どのように感じていらっしゃいますか？

桑野：私の専門は土構造物の長期挙動や、インフラの維持管理です。インフラの維持管理については以前から警鐘が鳴らされていたというか、関係者は危惧していたと思います。山梨県で起きたトンネルの天井板崩落事故をきっかけとして世の中の関心が高まって、今はもう国家の重大な関心事になりました。予

算が不足している中で、インフラを計画的に管理していかないと今までと同じような生活が維持できないということになるわけですから、ソフト、ハードの両面から、対策が必要な最優先課題だと思います。

本来は、夢のインフラが誕生し成長するなどの明るい話があるといいと思います。維持管理という語感には前向きな印象が薄いかもしれませんが、長期間にわたって発展的に維持する技術開発はそれだけで挑戦的な未来志向の課題だと思います。

内山：それでは、最後に桑野先生の今後の抱負についてお聞かせください。

桑野：これまで幸運にも、公私両面で、興味に任せてやりたいことをやりたいようにやってきました。今までいろいろな方から力をいただくばかりでしたので、これからは世の中に少しでも役に立てるよう力を尽くしたいと思います。女性土木技術者の会の活動としては、やはり、一般の方にも土木の意義を理解していただけるように広報活動に力を入れ、仲間を増やして会の成長を支えたいと思います。

内山：本日は大変貴重な、非常に楽しく興味深いお話をありがとうございました。

土木技術者女性の会



E : webmaster@womencivilengineers.com

W : www.women.civilengineers.com

[インタビュー後記]

今回ご登場頂いた桑野教授は、優しく朗らかな印象とは対照的に、強い意志とパワーを持つ素敵な方でした。孤独や苦境に立たされても、自分の道を前向きに切り拓いていく姿勢に感銘を受けました。キャリア継続のためには、必要なときはペースダウンする勇気を持つことを教えて頂きました。長期的な視点で自分のキャリアを捉え、時には「しのぐ」心づもりをしておくことが、重要だと思います。今後も、女性土木技術者の良きロールモデルとして、私たちの素晴らしい指導者として、そして世の中に役立つ土木技術者として益々ご活躍されることを願っています。

(編集委員：内山恵理)



<編集後記>

大変お待たせしました。名古屋での総会を中心にまとめた『輪』が完成しました。

『輪』を編集していて一番楽しいことは、誰よりも早く原稿を読めること。いただいたメールを開いていつも感動しています。これからもみなさまの表情が見えてくる誌面にできればと思います。入会しているけれど、イベント等までは参加できない方も多数います(最近の私もこちら組)。その人たちにとっても『輪』が有意義なものになっていると幸いです。

最後に、なかなかかたちが見えてこないなか、嫌な顔もせずに支えてくださった山田菊子さん、佐藤亜紀子さん、心配して連絡やはげましをくださったみなさま、執筆や編集を手伝ってくださったすべての方々に感謝いたします。

箱田裕子(編集長/関東地区)

今年の北海道は雪解けが遅く気分はまだ真冬なのですが、やっぱり季節は廻って花は咲き、『輪』が発刊される運びとなり、うれしいことです。箱田編集長のご努力のおかげです。ありがとうございます。それからあわてて原稿をお願いして、快く記事を出していただいた地区のみなさまにも、この場を借りてお礼申し上げます。ネットを介してすぐ返信がくるありがたさと、コピーされ広がっていく情報の軽さは一つのものなわけで、その重さの違いにちょっと気を付けつつも、『輪』らしいオリジナルな色の花が咲かせられると良いなと思っています。

中山真貴子(北海道地区)

私は2009年の中部地区での総会がきっかけで入会したため、初めて総会の準備のお手伝いをさせていただきました。今回の総会では、平永さんの的確な采配によって、中部地区一丸となって現場見学会から総会までを乗り越えることができ、とつても濃厚な二日間を過ごすことができました。私自身の反省点や課題点もありましたが、全国からみなさんが集まり、「ありがとう!」「おつかれさま!」のお声をかけていただけたことや、『輪』の記事に「ひとこと感想」や「スタッフ(中部地区)コメント」等をたくさんいただけたことで、本当に嬉しくて幸せな気持ちになりました。また、準備スタッフとして動いたことで、30周年記念総会及びどぼく未来フォーラムがみなさまの大きな努力によって成り立っていたんだ! という基本的なことに気付くことができたことも、大きな経験となりました(余談ですが、NEWS ZEROに私がちらっと映ったことも、とつても嬉しかったです!)。このたびは、たくさんご協力いただき本当にありがとうございました!

森瀬真琴(中部地区)

本号の「会員のページ」は、以前あったコーナーの復刻版です。たくさんのおいそいなものの情報が集まって、私も編集しながら楽しむことができました♪ みなさま食べ物に対する思い入れが強く、ミニコーナーのはずが4ページも頂いてしまいました。たくさんの方の普段の声が聞こえる楽しいコーナーができたかな? みなさんの「生の声」を届けて、お互いが身近に感じることはできないかなと思います。いかがでしょうか? 次号以降も身近なネタで続けていくことができればと思います。

でも実は、本号で私は「編集委員」を卒業となります。心残りもありますが、次号からは投稿する側にまわります! みなさま、ありがとうございました。

大植敦子(関西地区)

「輪」への投稿・ご意見は編集長 または、地区担当へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は、事務局まで、お願いします。
e-mail:webmaster@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員（担当地区）】

箱田裕子(編集長/関東)、中山真貴子(北海道)

森瀬真琴(中部)、大植敦子(関西)

【事務局】

〒163-0606 東京都新宿区西新宿 1-25-1

大成建設株式会社 土木営業本部

りょう
龍 尊子(事務局長)

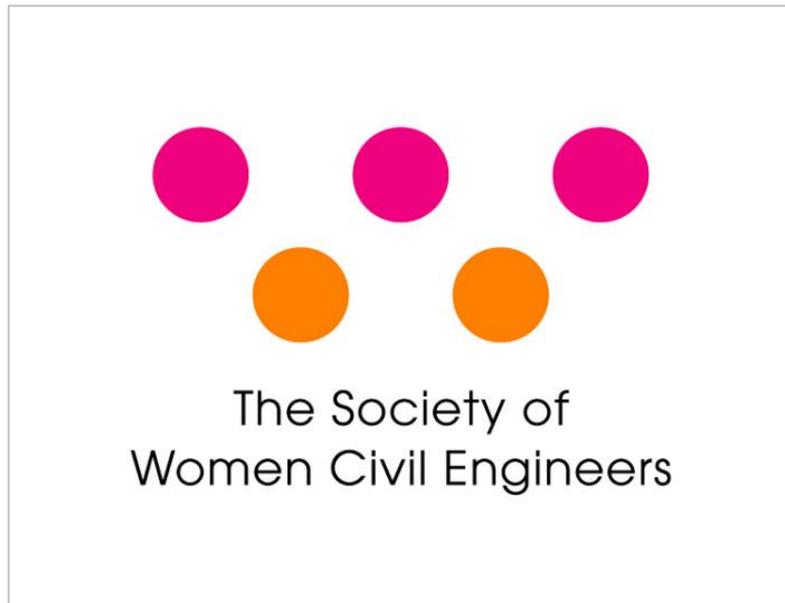
2013年度「輪」総会特別号(第55号)

2014年3月27日発行

土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

本号は「任意団体」としての最後の会誌です
次号からは「一般社団法人 土木技術者女性の会」として発行します



本号は「任意団体」としての最後の会誌です
次号からは「一般社団法人 土木技術者女性の会」として発行します

土木技術者女性の会
2013 年度「輪」総会特別号(第 55 号)